

登山時報

2022年11月15日発行(毎月15日発行)
1987年3月23日第三種郵便物承認
ISSN 1880-4993

12

特集 思いでの山、会心の山、とっておきの山

2022 No.574



ハイキング A・B・C

第5版

入荷しました！

1991年の初版発行以来、全国で長年愛用されてきた労山の初心者用テキストが新しくなりました。

主な改訂点は「登山・ハイキングにスマホをどう活用するか」。

他にもネットを使った地図や気象情報の取得など、新しい内容を盛り込みました。



B5判 1部 300円

労山会員・加盟団体は送料無料

30部以上まとめのご注文は、1部につき250円

書名・部数・団体名・送付先を明記し、FAXまたはメールで下記へお申込み下さい

全国連盟事務局 FAX:03-3235-4324 メール:jwaf@jwaf.jp



メコノプシス・グランディス

天空の青いケシ

ネパール花探索 ④

写真・文 松永秀和



メコノプシス・
グランディス

ネパール東部トブケゴ
ーラ、サド・ポカリ、標高
3870m



メコノプシス・ディスキゲラ

ネパール東部パンサン・バニヤン峠の北

青いケシは英国庭園の主役の一つであるが、庭園を彩る青いケシは交配による園芸種で、チベットのバイレイ、プータンのガキディアナ、そして今回紹介するメコノプシス・グランディスが主な親種だ。最初に導入されたのがグランディスで、19世紀末シッキムから持ち込まれた。その原産地はネパール東部。英国で咲いた花は藤色だった。

2018年6月末、グランディスを求めてタプルジュンから4日間歩きトブケゴーラに着く。集落の北にあるサド・ポカリの周囲で花を探す。草や低木の間に濃いピンクの花をつけた高さ1mほどのグランディスがあった。花に誘われてシャクナゲ林に入る。すると、そこには2m近いグランディスが数株咲いていた。花径は25cmもあり、その名の通り威風堂々(グランド)とした姿であった。

翌日パンサン・バニヤン峠を越えてツダムへ向かう。峠の下の岩陰で黄色い花をいくつもつけたメコノプシス・ディスキゲラを見る。朔果がディスク状になるディスコギネ亜属で、これまで紹介したトルクアタやプータニカの仲間だ。

これまで54回に渡り、61種の青いケシを紹介してきたが、今号で終了します。未見も含め残り30種ほどあるが、またの機会に案内したい。



眼前にそびえる聖岳（小聖岳より）

四季の山岳撮影紀行

最終回 厳冬の聖岳

写真・文 宮本宏明

毎年、年末（または年始）の登山は、比較的天候が安定している南アルプスへ行くことが多い。この年は、同じ会のI氏と聖岳を目指すことになった。

年も押し詰まった金曜の朝、I氏が車で近くの駅まで迎えに来てくれた。前夜からの雨は上がったが気温が高く、甲府では霧が出ていた。長坂のあたりで綺麗な虹を見て、伊那谷では日差しが戻ったが、時々雨粒が落ちてくる。南アルプス是不気味な黒い雲に包まれていた。松川ICで高速を下り、みぞれ混じりの雨の中を下栗から芝沢ゲートへと向かう。芝沢ゲートの駐車場には我々の車だけ。車の中で昼食を食べているうちに雨は上がった。

林道を歩き出してすぐ、林道が崩壊した場所を大きく高巻いた。さらにもう一ヶ所崩壊した所を小さく迂回する。あとは便ヶ島までひたすら歩く。便ヶ島から西沢渡までの軌道跡の道も



夕照の上河内岳

所々で崩壊し荒れ気味だ。天気が次第に良くなり、上河内岳の真っ白な稜線が見えてきた。西沢渡では籠渡し（手動のロープウェイ）で一人ずつ対岸へ渡る。上半身の重労働で汗が噴き出す。二人が渡るのに30分かかった。渡った所にテントを張る。気温は高めで暖かく、快適なキャンプとなった。夕食に雑煮を食べ、19時過ぎにシュラフに入った。

翌朝は4時起床。満天の星空だが、あまり冷え込まなかった。朝食を作っていると何かがテン



聖岳を望むベース

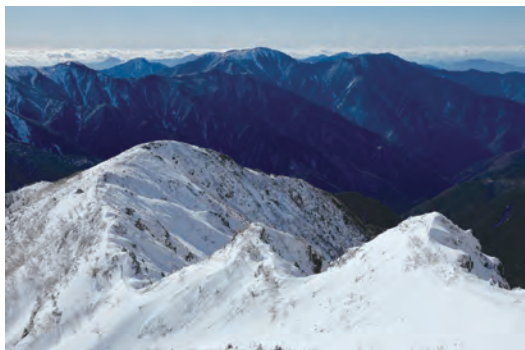
トの周りを歩き回る音がしていた。こちらが声を出しても逃げないので不気味だったが、しばらくしたら音がしなくなった。鹿だったのだろうか。

ヘッドランプを点けてテントを撤収し、明るくなり始める頃尾根に取り付く。いきなり急登が続く。雪はほとんど無いが、途中の岩場の通過は足元が不安定でいやらしい。ベースは快調、2ピッチで標高差500メートルを登った。その後も1時間にてゆくが、雪が出てくるとさすがにペースが落ちてきた。台風によると思われる倒木の通過でも体力を消耗。稜線の手前では膝下のラッセルとなり体力的に厳しかったが、薊畑の合流点で上河内岳がどんと視界に飛び込み、疲れが吹き飛んだ。

聖平方向へ少し下った所にテントを張り、日没まで撮影を楽しんだ。撮影している間に後続のパーティーが登って来た。自分がついてトレースをつけて



聖岳山頂からの赤石岳、遠くに仙丈ヶ岳



聖岳から小聖岳へ続く雪稜、遠く光岳

来た事が少し誇らしい。澄み渡った空に夕日が輝き、山がオレンジ色に染まった。日が沈むと一気に冷え込んできたので、急いでテントに戻った。

水を作ってから豚汁の夕食を食べ、20時半にシュラフに入った。

3日目、4時起床。快晴だ。気温はマイナス13度。朝食を食べ、アタック装備を整え、ワカシとアイゼン併用で聖岳を目指して出発。

ブレーカブルクラストの雪に

ワカシの効果は絶大だった。I氏とラッセルを交代しながら進む。日が昇ると半分雨水のような樹水が美しく輝いた。小聖岳手前の森林限界までトレースをつけ、ここでワカシを外す。

ダウンを着込み、目出帽を被って小聖岳へ。小聖岳からは、目の前に聖岳の大斜面が広がっていた。14年前の冬に登った時はほとんど雪が無いガラガラ斜面だったが、今回はベツタリと雪が付いている。急斜面の直登は歩きにくい。途中、I氏がアイゼンを引つけて滑落しかけヒヤッとしたが、自然に止まり胸をなで下ろした。入山3日目で疲れが溜まっているのか、ペーシが上がる。頂上直下は傾斜がきつい上に雪面が固くクラストしており、アイゼンは刺さるがあまり効かない雪質で、緊張した。

聖岳頂上では強風が吹き荒れていた。ツエルトを被って休憩し、周りの風景を撮影して山頂を後にした。



輝く樹氷

下りは、上り以上に緊張し、
一步一步慎重に足を運ぶ。今回の
の聖岳はかなり厳しいコンディ
ションだったといえる。標高を
下げるにつれて雪が柔らかくな
り、普通に歩けるようになった。
樹林帯まで戻って来たところで
ホッと一息。デポしておいたワ
カンを回収し、安全な雪道をも
んびりとテントまで下った。

テントに着く頃、空に雲が広
がってきた。天気が下り坂で
夕方の撮影は期待できないの
で、テントに入ってのんびりと
酒を飲む。夕方になって外の様
子を見ると、すっかりガスって
しまった。温かい鍋の夕食を食
べ、翌日用の水を作り、20時前
にシュラフに入った。

下山日の朝も4時起床。予報
通りチラチラと雪が降っている。
朝食を食べ、暗い内にテントを
撤収。風が無いのがあるがたい。
蘆畑の分岐まで登り返し、西沢
渡への尾根を下る。トレースが
バッチリ付いているので、快適

に標高を下げてゆく。次第に雪
が減り、アイゼンを外した。雪
はやがて雨に変わり、汗だくにな
ってきた。尾根の下部は傾斜
が強くなり、数ヶ所の危険地帯
を慎重に通過する。

西沢渡の籠渡しを渡ってホッ
と一息。ここから軌道跡を1ピッ
チで便ヶ島。東屋で雨を避けてお
湯を沸かし、スープを作って大
休止。あとは車道をのんびり歩
き、2ヶ所の崩壊地を迂回する
と芝沢ゲートに到着した。

荷物を車に載せ、さあ温泉へ。
ところが林道を北又渡から下栗
へ向かって上る途中でタイヤが
パンクしてしまった。幸い携帯
の電波が通じたのでJAFを呼
ぶことができた。2時間近く待
ち、すっかり暗くなった頃に救
援車が到着、要領よく応急タイ
ヤに交換してもらった。
温泉に入ってさっぱりしてか
ら夕食を食べ、帰途につく。最
後に思わぬトラブルがあった
が、一年の締めくくりにあつた
らしい充実した山行だった。

登攀準備中
束の間の談笑（左が井上、右が松田）

「思い出の山」「とっておきの山」「会心の山」をキーワードとし、ここ5年程で登山時報に掲載された山行・紀行から3編を厳選した。そのひとつが「穂高岳・滝谷 出会から第4尾根の登攀記録」だ。2018年2月・3月・4月に渡って掲載された記録を凝縮し、再度紹介する。

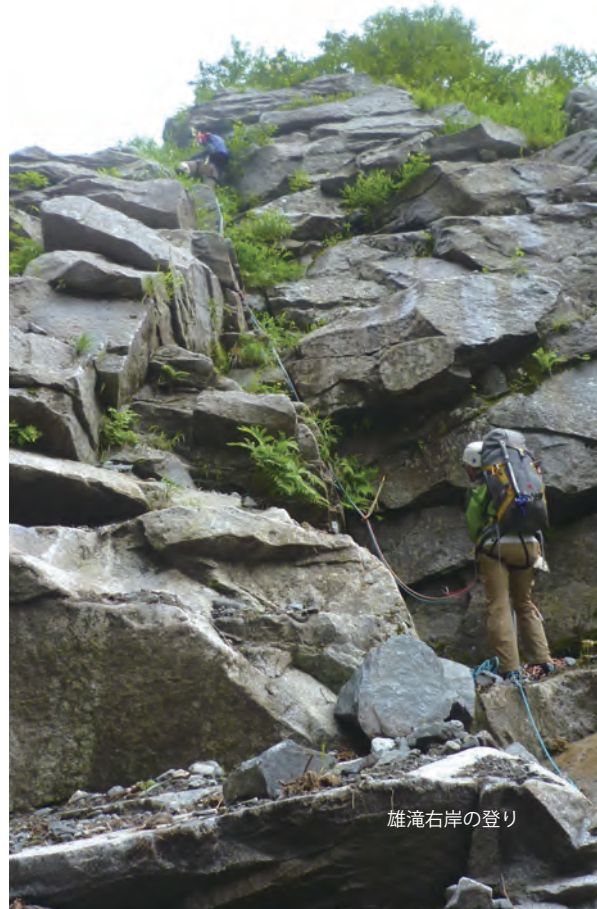
穂高岳・滝谷 出会から第4尾根の登攀記録

正田吉継 山の回TENSION / 大阪府

本記録は、大阪府連盟統合初級アルパインリーダー学校の検定記録の抜粋だ。この山行は、無積雪期のアルパインクライミングを計画し、リーダーとしての到達度を確認する目的が課せられ、2017年8月10日から14日までの日程で行われた。10日夜・大阪発→新穂高温泉→滝谷（雄滝、滑滝～C沢右股）→スノーコル→滝谷第4尾根→北穂高南稜→涸沢→上高地→新穂高温泉→14日大阪帰着。参加者は正田吉継（CL59歳）、井上好司（58歳）、松田明博（副校長・OWCC 58歳）の3名である（年齢は当時）。

「特筆すべき2つの要素」

滝谷第四尾根を登攀する場合、現在では北穂のコルからC沢を下降して取り付き点に至り、登攀するというのが一般的だ。滝谷の下流の出会いから詰めて登るというケースは極めて少ない。滝谷からスノーコルまでは、巨岩と浮石だらけのガレ場と雪溪のオンパレード。途中の滝の高巻きは岩と泥と砂利とが混じって「スノーコルまでの長大なルートは、日本の無積雪アルパインルートの中でも最も労力を要す



雄滝右岸の登り

るコースだ」といわれている。第4尾根の取り付きに着いた時点で、本番の登攀を前に気持ちが悪くとしたのを覚えている。沢登りプラス岩壁登攀の、「一粒で2度苦しい」山行、しかもこれがアルパインクライミングの醍醐味、楽しさと言っているところ凄いな。

滝谷の遡行

雄滝突破しビバーク地へ

滝谷の出会い。広い河原に大きな岩がゴロゴロしている。しばらくガレ場。雄滝の約100m手前から雪渓が現れる。雪の



滝谷の雪渓



恐怖のトラバース滑滝



沢幅10m 滑滝の登攀

薄い雪渓で、雪上を歩くのは危険なので、雪渓の下をくぐって歩く。全員が雪渓を通り抜け、雄滝右岸（雄滝と雌滝の間の尾根）の下部に出る。登り始め、岩があるのは取り付きだけでホールドもスタンスも乏しい。上へ行くほど草付き、泥付きの滑りやすい壁で、ズルズルと滑り、登るのに難儀する。さらに上部へは木登りで登る。ヒーヒー言いながら、やっと、小さな空き地（約2×3m）に出た。ここでビバーク。これ以上登らなくていいと思うと、なんだか嬉しくなってくる。前夜、ほとんど眠れてないので、食事

をとったらバタンキュー。ぐっすり眠りについた。

最後の遡行 ガレ場を突破

8月12日気温は10度の中6時出発。昨日水汲みに行った、恐怖のトラバース道に行く。緊張で眠気がいっぺんに覚める。かなりの激流で、ひっくり返りでもしたら一気に滝壺だ。「なんでも朝からこんなところ歩くねん」とぼやきながら、武者震いする。2時間半後、滑滝右岸を登攀する。ここで落ちて滑ったら下まで止まらなそうに緊張する。登り始めから、スタンス、ホールドがない。3ピッチの登攀で

滑滝上まで出た時には大きな浮石の落石も経験した。

4時間半後、滑滝の上部に着く。再びガレ場歩き。またすぐに雪渓が出てきた。しっかりと雪渓は雪の上を歩くが、崩れそうな雪渓は雪の下をくぐる。3人が一斉に雪渓の下を急ぎ足で通過する。この山行では計6箇所雪渓のトンネルをくぐった。

この後、ひたすらC沢を詰めていく。ガレ場の連続だ。周囲を見渡すと、だんだんと荒涼とした光景が増し、まるで石の墓場を見ているよう。そして穂高の稜線が迫ってくる。その稜線に向かって、谷筋がより急峻さを増す。迫力ある光景だ。岩と石の世界。申し訳程度に木が生えている。殺伐として、落ち着かず、楽しくない光景だ。「鳥も通わぬ」というのを実感する。そんなことを考えているとき、鳥が上空をかすめていった。「僕も鳥になりたい」と思った。

(12ページへ続く)

原田勇成の

白神便り

| 最終回 |

白神に想う

平成14年9月、青森県西津軽郡岩崎村（現在は深浦町）に越した。白神の森に浸かり、聞き、嗅ぎ、感じ、それが何なのかを知らなかった。そこに住まなければ体験できない何かがあると考えていた。

たとえば、文書には残っていないツキノワグマやニホンカモ

シカとの命の駆け引きが、ブナの幹に「鈍目」として100年以上も残っている。しかもその主人公たちの子孫が身近に暮らし、確かに在った証を生活の中で感じる事ができるのだ。100年以上前、白神の恵みを求めて現在の秋田県の阿仁町周辺からマタギと呼ばれる人々が

流れて来た。いつしか彼らにも子供が生まれ、この地に根付いた。私もこの地で子供二人に恵まれた。かの鈍目を刻んだ人の子孫やその仲間と共にクマを追い、獲り、食った。令和の今、巻き狩りなどの狩猟文化の灯が高齢化により消えようとしている。ただ、幸いなことに、私はギリギリ間に合った。彼らと森を歩けたことが財産となった。

そして思う。世界自然遺産白神山地にあった文化遺産的な側面こそ、この森を理解するためにも重要な要素かもしれない。その地の文化を知らなければ、その自然を理解することなど出来ないのではないか。自然と文化は切っても切れない共生関係にあるのだと。

長くお読み頂きました皆様、登山時報編集部の方々、そして、いつも共に森を歩いて頂いた地元の諸先輩方、特に栄治さん、板谷さん、富さん、本当にありがとうございました。写真は自宅付近の海辺から仰ぐ白神岳。

登山時報

2022 **12** No.574

表紙写真：宮本宏明

「巖冬の赤石岳」

前日に雪降る中を富士見平まで登ってきたが、この日は朝から天候が回復し絶好の撮影日和となった。太陽が回るにつれて赤石岳に陰影が生まれ、険しい表情を見せてくれた。この翌日からは厳しい風雪となり、結局1日だけの撮影のチャンスだった。



CONTENTS

- | | | |
|----|--|------|
| 01 | 天空の青いケシ ネパール花探索 | 松永秀和 |
| 02 | 四季の山岳撮影紀行 | 宮本宏明 |
| 06 | 特集 思いでの山、会心の山、とっておきの山
大阪登山学校・滝谷 | 正田吉継 |
| 08 | 白神便り | 原田勇成 |
| 10 | ふみあと | 川嶋高志 |
| 11 | 子づれ山さんぽ | 武井真理 |
| 12 | 特集 思いでの山、会心の山、とっておきの山
奪われた山のこと | 中石求 |
| 16 | 登山と技術 | 木元康晴 |
| 18 | 登山時報からのお知らせ | |
| 19 | 山楽登山の世界 | 中川和道 |
| 22 | 考察 雪崩サーチ&レスキュー | 鈴木孝 |
| 24 | アドベンチャー・トラベル | 大蔵喜福 |
| 26 | 山登りのための やさしい気象講座 | 野尻英一 |
| 28 | 専門委員会活動報告 | |
| 31 | 全国連盟の活動 | |
| 32 | マンガ フウフウ ハアハア | 村松孝一 |
| 33 | インタビュー ひと 漆崎隆之 | |
| 34 | 地図読み迷人 宮内佐季子 小泉成行 監修：村越 真 | |
| 36 | 特集 思いでの山、会心の山、とっておきの山
一人ぼっちの北ア・硫黄尾根 | 木下育美 |
| 39 | 筑井孝子のちょっと人物・物をうまく描こう / あらかると | 石井光造 |
| 40 | 山の自由帳 | 篠塚優 |



「登山時報」はリサイクル可能なソイインク
(大豆油インク)を使用しています。

ふみあと

2022年も残るはひと月あまり。登山が創立して62年が経ち、今年ほど人類生存の危機が生じたことはない。コロナ禍もたらした経済的困難に協力して立ち向うべき時に、大量破壊兵器のミサイルが頻繁に飛ぶのは言語道断である。加えて温暖化のもたらす自然災害の脅威も増している。対峙すべき相手を間違えてはならない。

では、登山で対峙すべき対象とは何か。私たち登山者は山行計画を立て、食料や装備を自分で背負い、苦難や困難を克服して目的を達成する。リーダーともなれば、自分だけでなくメンバーの安全にも責任を負い、安全な行動のために知恵を絞る。山中では初めて会う人と挨拶をかわし、不測の事態が発生すればお互いに助け合う。

こうした行動を経て、美しい景観や愛らしい動植物との出会い、素晴らしい体験を享受するとともに、自然環境を大切に守る必要性について学んでいく。山は私たちが進むべき道と未来を教えてくれる。大自然の中で太陽光を浴び、風を感じ水の流

れと戯れ、岩場や積雪を克服する達成感。ひとりでは行けない場所には、共に登る仲間も募ろう。時には、仲間の技術レベルを上げるトレーニングも企画しよう。

一方、登山団体としては、登山の対象となる自然環境の利用方法改善も、対峙すべき対象となる。外国に目を向ければ、アメリカの国立公園では、車で行けることのできるフロントカントリー、徒歩で訪れることのできるバックカントリー、手つかず

の自然が維持されているウイリダネスの三つに明確に区分されている。そこでは自然保護とともに、全ての人が平等に楽しみ学ぶことのできる環境が整備されている。

日本でも山小屋の運営、登山道の修復、クライミングのできる岩場へのアクセス、案内の行き届いたトレイルの整備を組織的に推進し、国内外から多くの人々を迎え、豊かな人生を育む一助としていかなければならない。そのためには、私たち登山者が地道に登山活動を広げていく余地が多く残されている。

私たちが目指す山の頂はまだ見えていない。しかし、争いをやめ困難を克服し、明日も山へ登るための活動を続けに行きたい。

(川嶋高志／日本勤労者山岳連盟 理事長)

2022年3月

飛鳥：0歳9ヶ月

タイム◎10:40 小田急新松田駅～(徒歩)～10:50JR 松田駅～11:00 西平畑公園・松田山ハーブガーデン～(授乳、おむつ替え休憩)～12時過ぎ内藤園 あぐりパーク嵯峨山苑～13:30 過ぎ新松田駅

参考◎山と高原地図「丹沢」(昭文社) ([松田ハーブガーデン] とある辺りです)、西平畑公園公式ホームページ (https://nisihira-park.org/)



満開の河津桜と菜の花の階段を上る!

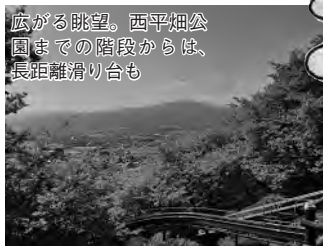
西平畑公園には、こんな楽しいミニ鉄道も走る(この日は中高年のお客さんにも大人気)



桃源郷のようです



芝生広場で昼食。この頃、飛鳥はお座りやひとり立ちができてようになりました。



広がる眺望。西平畑公園までの階段からは、長距離滑り台も

子ごれ山さんぽ[®]

vol.65
やま 武井真理 カモシカスポーツ

七瀬 2015年6月生まれ
峻 2018年7月生まれ
飛鳥 2021年6月生まれ

松田山の河津桜&菜の花

『登山時報』が月刊から季刊となる影響で、河津桜の季節に本誌の発行がありません。しかし、来年早春の河津桜お花見にぜひ、と思い、だいた季節先取りで紹介しよう。

小田急沿線、松田山の中腹に、駅から徒歩圏で河津桜と菜の花を楽しめる公園があると知り、0歳9ヶ月の飛鳥とで出かけました。

電車外出は、なかなか荷物がかさばるので気合がいきます。まして、この時は、飛鳥は抱っこひもで抱っこし、荷物は背中に背負って、前後に重りを下げているような感じで出かけていきました。

最寄駅から電車約1時間で新松田駅。飛鳥は車内では抱っこで寝てくれたので助かりました……!

車窓から、松田山の桜色にそまっている一角とハーブ館の建物が望めます。駅を出ると「まつだ桜まつり※」の案内看板があちこちに。「シャトルバス乗車コース」「徒歩コース」の両方が各地に立っています。

桜まつり開催中は、JR松田駅前からシャトルバスが出ています。看板に導かれ、とりあえずJR駅前のバス停へ。乗るうか迷いましたが、天気も良く、春の暖かい日差しに導かれ、徒歩で行くことにしました。ここからの道も、強力な案内看板に導かれて歩きました。

荷は重くとも、これは正解でした。同じ神奈川県といえど、私が住む地域とは文化圏が異なる感じの駅前の雰囲気を楽しめて(昔からの個人商店や喫茶店が残る、ちょっと昭和な駅前!)、まつり会場入口からは、階段を上って行くので

すが、河津桜と菜の花が満開な中を、歩くことができたのです!(→バスだと、この階段の上のバス停での下車となる) 急斜面のつづら折りの階段を、花に囲まれ、夢中で上り、ひと汗かこうちに、西平畑公園に出ました。そうすると寝ていた飛鳥が起床。こは1回おろして、授乳やおむつ替え休憩をしたというところ。西平畑公園の「子ども館」という遊び施設に入り、休憩させてもらうことに。

ここは今ふうのベビー休憩室的な設備はないのですが、代わりに管理人の女性の方が、図書室を授乳室として使えるようにカーテンで仕切って下さったり、私がトイレへ行く間(赤ちゃん連れでトイレに行くのはひと苦労!)、飛鳥の見守りをして下さったりしました。管理人さんが私たち母子を温かい目で迎えて下さり、そのお心遣いも、松田山のいい思い出になりました。

休憩して再び外へ。さらに上の方で個人経営の農園が一般公開となっているように、またしばらく坂道を登りました。こもすばらしい桜と菜の花!! 桃源郷のよう。展望も良い芝生広場で、お昼休憩に。

初めての駅、初めての景色、満開の花、「こどもの館」の管理人さんの温かさ。赤ちゃん連れの外出は、つい事前にこまかく下調べしがちですが、あまり思い悩まず、思い切って外に行くことも時には大事だなと思いました。

穂高岳・滝谷 出合から第4尾根の登攀記録

穂高の稜線望む スノーコル目指す

はまともにも歩けない悪路で、雪渓を歩いたほうが良かったかもしれぬ。

約8時間後、左側に第3尾根の末端を確認。右側に第4尾根。左俣と右俣の出合だ。右側の第4尾根の下部のガレ場をトラバースしていくのも、難しく、左側の第3尾根のガレ場をトラバース気味に登ることにした。しかし、この第3尾根のガレ場

右側の第4尾根を見上げると、スノーコルらしき地点が確認できた。第3尾根を右に下る。結構スリリングでちよつとビビる。第3尾根を下り、雪渓とガレ場を横切る。やつと第4尾根に取り付く。踏み跡がある。この2日間見なかった久しぶりの

人の痕跡だ。スノーコルへの道だ。懐かしさと嬉しさと足跡にキスしたくなった。第4尾根を200mほど歩き、10時間半経過した16時半にやつとスノーコルに到着した。

いよいよ本番 第4尾根に取りつく

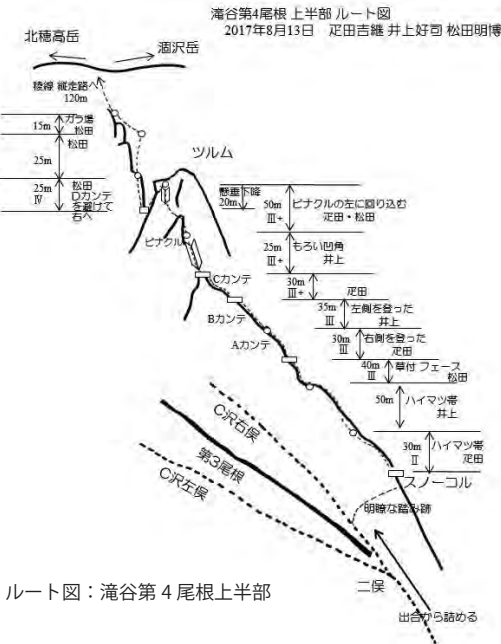
8月13日4時起床6時出発、晴だが気温は11度。1ピッチ目(30m I~III級)、最初だけIII級程度の岩があるが、そこを越えようとハイマツの続くI~II級の

尾根上の岩稜帯。コンテで登ってもいいが、ウォーミングアップのためザイルを伸ばす。朝イチなので身体が重い。息もゼーゼー。こんな調子で最後まで行けるのか？

2ピッチ目(50m)もI~II級のハイマツが混ざる岩稜帯。軽快に進む。3ピッチ目(40m III級)はとどころ草の付いた、浮石の多い、不安定なガレ場。しかし、昨日までの浮石に比べたら大したことはない。4ピッチ目(30m III級)はAの字にスパツと左右が切れ落ちたようなAカンテ。カンテの右側を登る。見た目は少々難しそうだが、ホールドはある。ただし、はがれやすそうな岩も多いので、岩を叩き、確認しながら登る。



スノーコルから穂高の稜線を望む



ルート図：滝谷第4尾根上半部

5ピッチ目(35m III~IV級)は、両側がカンテを削ったように切れたBカンテ。カンテのトンガリを両手で持ち、左側を両足でカニのように横歩きして、必死にしがみつぎながら登る。それにしては高度感がすごい。絶景

だ。Bカンテを登りきると、平らなりッジが続く。その向こうに、Cカンテが見える。リッジでピッチを切る。6ピッチ目(30mⅢ級〜Ⅳ級)は、Bカンテよりさらに傾斜のきついCカンテ。

すくつと立った垂直のカンテは見た目も厳しく、ツルツとしていて、ホールドも乏しい。7ピッチ目(25mⅢ級)では、頭上にそびえる大ピナクルに向かって、凹角の左側を登る。浮石だらけで、岩がもろい。岩を落とさないよう慎重に登る。井上さんが足を置いた草付きの泥土が、浮石とともに落下。少し滑落したが、すぐに停止。ヒヤツと緊張が走る。無事でよかった。ここで取り付いてから7時間が過ぎた。

大ピナクルから縦走路へ合流

8ピッチ目(50mⅢ〜Ⅳ級)は、大ピナクルの左下から右にトラバースして、ピナクルの右側下部まで登るはずだったが、ルートを間違えて、大ピナクルのコ

ルを乗っ越してしまった。ツルムのコルまで懸垂で下る。懸垂は降り始めが少しハングになっていて、やや空中懸垂気味になっている。

9ピッチ目(25mⅣ級)は最後のチムニー状の登りがしんどかった。ゼーゼー、ヒーヒー、息が切れまくりの登りだった。そういうえば朝から何も食べてないことを思い出し、行動食の柿ピーを少し口に入れた。緊張していると腹は減らないのか。

10ピッチ目(25mⅢ級)は登り始めてから8時間半もう16時半を回っていた。メンバーの疲労度と時間的なことからDカンテを避けて、

右の壁をトラバースし、回り込んだ後にスラブを登る。この辺りも浮石だらけで、足場の悪い嫌なところだ。

最後の11ピッチ目15mのガレ

場。ここも一歩一歩確実に足を置き、慎重に登る。18時過ぎに最終支点に到着。クライミングシューズからアプローチシューズに履き替え、登攀用具を仕舞う。ヘッドランプをつけて、フリーで登る。実は、この最後の草付きの岩登りが一番怖かった。「岩登りは、ザイルを外したあとに気が緩み、最後に事故が起りやすい」との思いが頭の中を駆け巡る。

ついに縦走路に合流する！

19時一般縦走路と合流。全員

が握手して登攀の無事成功を喜んだ。とにかく長かった。心からホツとする。しかし、まだ南稜のテント場まで歩かねばならない。21時にやっとテント場に到着。もうヘロヘロ。全体力を振り絞って、テントを設営。全員がテントに転がり込んで、シユラフに潜り込み、何も食べずに、即、寝た。約15時間、ほとんど食事摂らずに、よく行動したものだ。それにしても人間というものは、本当に疲れた時には、食欲より睡眠欲の方が勝つのだとつくづく思った。



第4尾根1ピッチ



第4尾根をリードする松田

沖繩本島の北半分は山国である。石川岳から北に恩納岳・ブート岳・熱田岳・久志岳・辺野古岳・名護岳・八重岳・嘉津宇岳・多野岳・塩屋富士・ネクマチジ岳・玉辻山・伊湯岳・与那覇岳・照首山・西銘岳・伊部岳と列をなして続いていく。いずれも500mにも満たない低山であるが、そこは亜熱帯の島、どの山も広葉樹林に覆われた常緑の深い森をつくっている。特に与那覇岳周辺は、極めて価値のある生物の多様性が認められるとして世界的にも注目を集めており、世界自然遺産への登録の準備が進められている。

沖繩労山はこれらの山々への日帰り山行を毎週のように楽しんでいる。願わくば石川岳を基点にこれら連山を数日かけて縦走したいとの夢があるが、叶わぬ果ての夢になりそうである。

米軍が接収

今も入山禁止の山々



キャンプ・ハンセンから望む恩納岳(左)とブート岳(右)

さて、「奪われた山」の話に移ろう。右にあげた山々のうち、恩納岳・ブート岳・久志岳・辺野古岳の4山に私は登ったことがない。沖繩労山や他の誰から

も登った話を聞かない。これは当然のことで、4山は沖繩戦の終結と同時に米軍がその海兵隊の演習場として接収・占領し、今も沖繩県民の立ち入りは禁止

沖繩 奪われた山のこと

おんなだけ 恩納岳・ブート岳・くしだけ 久志岳・辺野古岳

「思い出の山」「とっておきの山」「会心の山」をキーワードとし、ここ5年程で登山時報に掲載された山行・紀行から3編を厳選した。『沖繩 奪われた山のこと』は2020年4月号に掲載。

中石求 はないかだコザ／沖繩

されている。恩納岳、久志岳はともに沖繩屈指の美しい山である。戦後77年を経てもなお、私たちはそこに足を踏み入れることはできない。実にやるせない現実ではないか。

このような事情ゆえか、恩納岳は別として、ブート岳・久志岳・辺野古岳は、沖繩県民でさえその名を知らない人が多い。また、山と渓谷社発行『沖繩県の山』(新・分県登山ガイド46、2006年2月10日初版第1刷)でも、この4山の紹介はまったくされていない。

恩納岳

沖繩本島の中部に位置する山で、名山として古くから歌にも詠まれて親しまれてきた。東と西に海岸まで緩やかに伸びた山稜の線が美しい。標高は363mにすぎないが、どの角度からみても泰山を思わせる風格がある。

ところが、米軍は戦後、恩納



久志岳（左）と辺野古岳（右）

岳周辺を海兵隊の軍用地として
接收し、1957年、その東側
の金武町に「キャンプ・ハンセ
ン」を設営した。以後「キャン
プ・ハンセン」では、各種銃器
の実弾を用いた射撃訓練が行わ
れている。特に、恩納岳と隣の
ブート岳には「着弾区域」に指

定されたエリアがあり、ここに
155ミリ榴弾砲を頻繁に撃ち
込んでいた。本土復帰後も撃ち
込みは行われている。砲弾の炸
裂、あるいは山林火災で亜熱帯
樹林に覆われていた広大な森は
削りとられ、赤い山肌が露出し
たことは言うまでもない。射撃
訓練は県道を封鎖して行うもの
で、これは沖縄県民の激しい怒
り呼び、1997年以降は中
止されたままになっている。

恩納岳の山稜が西に入る恩納



恩納海岸から望む恩納岳

海岸は、一年を通して国内外の
観光客がバカンスを楽しむ有数
のリゾート地だ。美しい海岸線
とビーチが魅力で、リゾートホ
テルが林立しており、恩納岳の
容姿も華をそえている。だが、
国道58号線を隔てた道向こうは
米軍の実弾演習場で、恩納岳も
囲われて入ることができない。
米軍の演習場と背中合わせの南
国リゾート、沖縄ならではの皮
肉なコントラストではないか。

久志岳・辺野古岳

名護市辺野古の米軍海兵隊基
地「キャンプ・シュワープ」は、
20・781km²の広大な土地を戦
後すぐに軍用地として接收・占
領して設営されている。ここは
海兵隊の実弾演習場で、その真
ん中に標高351mの久志岳と
332mの辺野古岳があたかも
兄弟のように寄り添って立って
いる。久志岳の凛々しく天を突
く山容はハッとさせる美しさが
ある。だが、山々の東麓ではい

つも銃声が響き、実弾が飛び交っ
ている。私たちが立ち入ること
はできない。

いま「辺野古」は世間の耳目
を集めている。日本政府と沖縄、
あるいは政府とアメリカの関係
性が問われる際に必ず持ち上げ
る地名になっている。「キャンプ・
シュワープ」も全国的にその名
が知られるようになった。この
「辺野古」というのは辺野古岳で
はなく、辺野古岳から真正面に
望める海のことである。米軍の
普天間飛行場の移設先として、
「キャンプ・シュワープ」沖の海
を埋め立てて新たに飛行場を建
設して米軍に提供することの是
非をめぐる「辺野古」である。
辺野古の山である久志岳・辺野
古岳は、すでに75年前に米軍に
奪われたままである。今また、
今度は日本政府が、辺野古の海
まで奪おうとする暴挙に出たい
ることを沖縄県民は悲しんでい
る。「辺野古」の山の現状を知っ
てほしいとの気持ちで、久志岳・
辺野古岳も紹介するのである。

登山と技術

ITと登山 ②

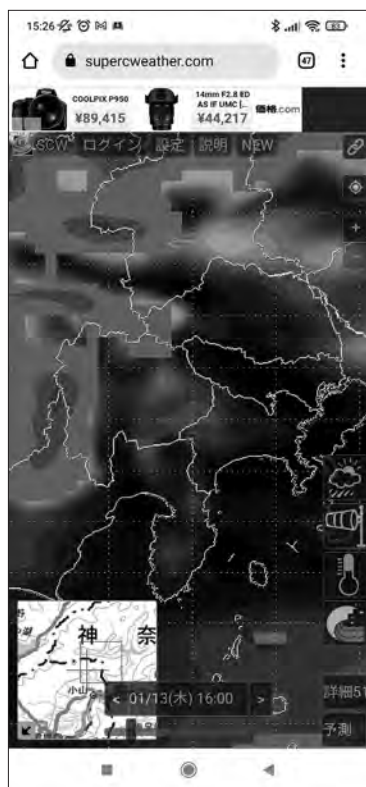
第6回

登山で活用するスマートフォンのアプリ

登山で活用できるスマートフォンのアプリには、登山専用で作られているもののほか、一般向けでも役立つものがある。ここでは登山者が活用したい、代表的なアプリを紹介する。

木元康晴

日本山岳ガイド協会 認定登山ガイド
NHK 文化センター柏教室講師
著書「IT時代の山岳遭難」、
「登山のダメージ&体のトラブル解決法」など



ウェブブラウザで閲覧した「SCW」の画面。

幅広く活用できる
「ウェブブラウザ」

スマートフォンでインターネット上の情報を閲覧するには、ウェブブラウザというアプリを使う。Androidでは「Chrome」、iPhoneの場合は「Safari」が一般的だ。

このウェブブラウザで「ヤマケイオンライン」などの情報ページや、自治体などが公開する登山道情報が閲覧できる。さらに山岳気象予報サービス「ヤマテン」や、スーパーコンピューターが予測する高精度の天気予報「SCW」も閲覧できるし、一部の自治体では登山届の提出も可能だ。

山行前に活用したいアプリ

山行の前に山の概要を調べたり、コースの様子を確かめたりするときに、ガイドブックや登山地図を見ることは多いはずだ。今では多くのガイドブックが電子書籍化されていて、「Kindle」アプリを使って読むことができる。何冊分もの書籍をスマートフォンの中に入れて持ち運びできるので、とても便利だ。

登山地図は、昭文社の「山と高原地図」アプリで閲覧できる。特に月額料金制の「山と高原地図ホーダイ」に登録すれば、全国全てのエリアの最新版の山と高原地図が閲覧できる。

登山届は、全国32の都道府県に提出可能な「山と自然ネットワークコンパス」を使つての提出が普及してきた。ウェブブラウザから提出できるほか、「コンパスEX」というアプリも用意されている。また、ナビゲーションアプリ（地図アプリ）の「ヤマレコ」からもコンパスへ登山届を提出できるし、「YAMAP」は独自に提携をして、全国9つの自治体へ登山届を提出できるようになっている。

実際の行動時に活用したい
アプリ

画面に表示した地形図上に、ほぼ正確に現在地を示し、歩いた軌跡（トラックログ）を残せるナビゲーションアプリ（地図アプリ）は、今では多くの登山者に愛用されている。代表的な「ヤマレコ」「YAMAP」「Geographic」のほか、「スーパー地形」のほか、登山届を提出する「コンパスEX」も同様の機能を持つ。

カメラを通して表示したその場



「Google レンズ」で表示された花の名前。



「PeakFinder」による山座同定。

の景色に、情報を重ね合わせるAR (Augmented Reality、拡張現実) 技術は山座同定アプリに活用されているが、特に使いやすいのが「Peak Finder」だ。これは線画で示した山名表示画像と実際の景色のズレを指で補正できる機能を持っていて、とても解りやすい。

花の名前を調べることができるアプリで最も実用的なのは、「Google レンズ」だ。これはAIを使ってインターネット上の類似画像を表示するもので、電波が届かないところでは使用できないがかなり正確だ。

また電波の届く場所であれば、「tenki.jp」アプリの雨雲レーダーや雷レーダーで、直近の悪天候を

名称	主な用途	対応		使用料の目安
		Android	iOS	
Chrome	ウェブブラウザ (インターネット閲覧)	○	○	無料
Safari	ウェブブラウザ (インターネット閲覧)	-	○	無料
Kindle	電子書籍閲覧	○	○	無料 (本は有料)
山と高原地図ホーダイ	登山地図閲覧	○	○	500円 / 月
ヤマレコ	ナビゲーション、登山用SNS、登山計画書作成、登山届提出	○	○	無料、または550円 / 月
YAMAP	ナビゲーション、登山用SNS、登山計画書作成、登山届提出	○	○	無料、または780円 / 月
Geographica	ナビゲーション	○	○	無料、または1,500円前後 / 1回のみ
スーパー地形	ナビゲーション	-	○	750円 / 年
コンパスEX	登山計画書作成、登山届提出、ナビゲーション、登山用SNS	○	○	無料、または480円 / 月
PeakFinder	山座同定	○	○	600円前後 / 1回
Googleレンズ	花、その他さまざまなもの名前を調べる	○	○	無料
tenki.jp	天気予報 (雨雲レーダー、雷レーダー)	○	○	無料
サン・サーバイヤー	太陽と月の位置を示す	○	○	無料、または1,600円前後 / 1回
スマートステラ	星と星座の位置を示す	○	-	480円 / 1回

※使用料の目安は、2022年10月14日現在の金額。

特に「ヤマレコ」「YAMAP」「コンパスEX」は登山に特化したSNS機能を備えている。トラックログに文章と写真を添えた、とても詳細な登山記録を比較的手軽に作成し、公開することができるようになっている。

「Twitter」、「Facebook」、「Instagram」などSNS (ソーシャル・ネットワーク) キング・システム) を使えば、登った山の思い出や写真を公開し、閲覧者と交流することができる。

察知することも可能だ。さらに月と太陽の位置を表示する「サン・サーバイヤー」や、星や星座の名前を表示する「スマートステラ」などは、必要な人には

山行後に活用したいアプリ

「Twitter」、「Facebook」、「Instagram」

とても役立つだろう。

編集部からのお知らせ

来年度から「月刊誌 登山時報」は「季刊誌 登山時報」として再スタートします。

これに伴い、編集部から以下の点についてご案内いたします。

《「季刊誌 登山時報」の発行と閲覧について》

「季刊誌 登山時報」は年4回(春号:3月25日、夏号:6月25日、秋号:9月25日、冬号:12月25日)発行です。A4判で、これまでの登山時報より一回り大きくなります。初刊は2022年3月25日・春号の予定です。労山の機関誌として各地方連盟にPDFファイルで配付し、各会・クラブへは地方連盟から配付予定です。また、発行日に全国連盟の公式HPでも無料公開予定です。会員外の方も自由に閲覧頂けます。

《紙媒体での発行・購読について》

地方連盟および各会に無料で1部郵送します。なお、名誉会員などへの無料配付は廃止します。

個人で紙媒体での購読を希望される場合、年間購読料1,000円(税・送料込)を申し受けます。

団体購読の取扱は廃止し、労山会員・会員外を問わず個人購読の扱いになります。

【申込方法】

全国連盟HPで専用の申込フォームを公開予定です。紙媒体での購読を希望される方は、個人でお申し込み下さい。労山会員の方は、会・クラブ毎に購読希望者をまとめて全国連盟に直接送付、お申し込み頂けますが、この場合も個人購読の扱いになります。

《「月刊誌 登山時報」購読料の返金、寄付について》

2022年12月号より先のご購読料を前納された団体・個人の方を対象に、返金を行います。

「月刊 登山時報」のご購読料残金は「季刊 登山時報」へ引継げません。季刊でも紙媒体で購読を希望される方は、お手数ですが新たにお申し込み下さい。

前納金の寄付も受付いたします。申し出られる場合は、購読者番号と併せて全国連盟事務局へメールまたはFAXでご連絡下さい。

《「季刊誌 登山時報」有料購読申込者へのプレゼント》

HPの専用購読申込フォームから「季刊誌 登山時報」の有料購読を申込された先着20名の方に、本誌連載中の筑井孝子さん著『筑井先生のスケッチブック別冊 筑井先生と水彩画を描こう』をプレゼントします。

《「季刊誌 登山時報」春号のトピック》

- ・「第18回全国登山研究集会」講演、分科会
- ・「第35回下期全国評議会」報告
- ・「春山 GW 特集(仮)」
- ・「登山と技術 ITと登山」

山楽登山の世界 essay

⑧

夏山の滑落停止技術とは

中川和道 O W C C 大阪勤労者登攀クラブ／大阪

小中高の部活の地域委託についての報道で、水泳教室だか水球教室だかで、外部のプロコーチに頼んで溺れる疑似体験をさせてもらい水難事故を防止するとの記事を読んだ。私たち登山者は「ヒヤリハットから学ぶ」ことを目指すのだが、「溺れる疑似体験」は、意図的ヒヤリハットそのものだ。

「溺れる疑似体験」が重要視されるのは、溺れる事故が多いこと、これを防ぎたいという強い願いがあるからだ。

	事故疑似体験	事故防止技術
雪山	あり ¹⁾	あり ²⁾
山スキー	あり ³⁾	あり ⁴⁾
岩登り	あり ⁵⁾	あり ⁶⁾
山歩き	なし ⁷⁾	なし ⁸⁾

山歩きでは、下山中の事故が多く、転倒・滑落で骨折にいたる場合が多い。これを防ぎたいと願うものの、数十年にわたって十分な対策を作り出せていない。大阪府連の事故分析『事故防止は仲間の知恵

で』（2021年発行）はこの問題で数値的に明らかにした。中川はこの結果に驚き、問題解決めざして、手あたり次第、いろいろな検討を行っている。「溺れる疑似体験」をヒントに、私たち登山者の「事故疑似体験」、さらに「事故防止技術」を表にまとめた。雪山では、滑落疑似体験1)としてくぼ地の底地形などを用いて実際に滑ってもらい、ピッケルを打込む・軟雪を抱きかかえるなどの滑落停止技術2)を習得してから雪山に向かうのが常識である。山スキーでは同様にくぼ地地形で暴走体験3)を行い、横後方に上手に倒れる停止技術4)を学ぶ。岩登りでは、トップロープやスポッティングで安全を期したうえで墜落5)してもらおう。通常の墜落では衝突防止技術6)は確保者が行い、ボルダリングではマットの上になうまく着地して足をひねらないなどの事故防止技術6)を覚える。

ところが、表に示すように、山歩きでは、転倒疑似体験7)や滑落疑似体験7)は、その例を聞かない。ましてや、転倒防止技術8)や滑落防止技術8)は、識者に尋ねても「まったく知らない」と答えられ、手元の登山技術書にも何の記述もない。そりゃそうだ、中川を含め年配の山歩き愛好者を登山道下りで安全に倒す方法なんて、現在は、ない。ある識者は固定ロープを左右両側に張って下りを練習してはとおっしゃったが、実際に転んだときの安全性に乏しいように思う。ポールバスケットに転倒者が飛び込んでもらう方法も実効性に乏しい。転ばないための体操（山筋ゴーゴー体操など）は、いざ転んだときに止めるものではなく、それを事前に防止する対策である。一方、搬出講習会は転んだ事後の対策である。結局、事前事後の備えはあるが、転んだその時になすべき転倒滑落停止技術は、夏山では、ない。転んだらおしまいであり、登山技術体系の未開拓分野である。

夏山の滑落停止、何か、いい方法を一緒に考えませんか？こんなに事故が多いのですから。

大阪山ニュースに連載中のエッセイ「山楽登山の世界」から第54回目（2022年11月号 <http://owafnews.aikotoba.jp/kikanshi2211.htm>）を紹介する。



広げよう仲間の経験を！ 増やそう仲間を！

第23回全国ハイキング交流集会 IN 山口

28都道府県連盟・79名が集つ

去る10月1日(土)～2日(日)に行われた「第23回全国ハイキング交流集会」は、初めて西日本を会場として開催され、関西・中国・九州地方を中心として、28都道府県連盟から79名の仲間が参加した。1日は主催者として久保典子全国連盟副理事長、主管団体から川辺淳二会長がそれぞれ挨拶した。その後、田上千俊ハイキング委員長が以下のように基調報告を行った。

登山の継続発展の活動を止めない

今、私たちは大きく3つの課題との闘いに直面している。ひとつは「コロナ禍との闘い」。ハイカー層の大きな活動の柱であった「バスハイク」の実施が困難に。しかし、これは山行パーティの縮小化やマイカー活用などで少なくないクラブ・会が乗り切りつつある。二つめは

「高齢化との闘い」。会員の平均

年齢が優に70歳を越えた団体が多くある。従来と同じ山行活動や会運営が厳しくなってきた。病歴の管理やランク制の導入など多くの経験が語られ、中には山行スタイルの大幅な改善などで「高齢化問題などない」という団体もある。又、新入会員の年齢制限で若返りに成功している団体もある。三つめは「登山創立の理念を仲間を引き継ぐ活動」である。半世紀前、労山は「登山の社会的文化的価値、多様な登山」という理念を掲げ、それから大きく伸びてきた。登山者教育やクリーンハイクなどの山岳自然保護活動をはじめ、山岳界をけん引してきた労山の歴史を引き継ごう。

IT時代の山岳遭難

木元康晴登山ガイドが講演

スマホを活用した安全登山と題して登山ガイドの木元さんが、現在地確認やルートの探索、

救助要請、電子登山届など便利で安全を担保するアプリや情報の見方など1時間半にわたり講演。

講演後、6時まで三つの分科会に分かれて交流。翌日は4班に分かれて近くの「火の山303m～陶ヶ岳2522m」でハイキングを楽しんだ。

第1分科会

「会・クラブ運営と会員拡大」
13団体、15名

はじめにデジタルを活用した会員拡大、各会で登山教室を開催している香川県連盟の活動を紹介した。発言の中では「高齢化問題」「後継者問題」に悩んでいるというものが多かった。その中でコロナ禍と闘うのか、それとも自粛するのかで会・クラブの明暗が分かっているようである。コロナ禍でも登山学校を開催して会員を増やしている例(広島)、後継者難で会が解散した例(大阪)などが報告さ



交流ハイキング
第4班の仲間

交流ハイキング第3班の仲間



れた。又、登山趣意書についての発言もあり、「若い人が理解しやすいものに」という意見、「登山のことがよく分かっている」という発言もあり、趣意書の改定と普及の必要性を感じ

た。「ライン活用」の会運営や山行活動については過半数を超える参加者から報告があり、オンライン例会等も含めて今後の活動の中心となるだろう。

(報告・市原義博)

第2分科会

「山行活動について」

14団体、17名

多くの団体が山行活動の人数

や回数にコロナ禍の影響を受け

たと発言があった。特に車での

山行が増え、登山口の駐車場問

題など新たな課題も生まれた。

同時に山行回数が減り、体力の

低下が目立つようになり、積極

的なトレーニングの必要を訴え

る意見があった。高齢化と山行

活動については、「直接的な影

響はない」という意見と「積極

的なトレーニングで体力低下を

防ぐ」という意見があった。前

者では山行ランクを下げたり、

観光も含めるなどの工夫をして

いるという発言があった。総合

山岳会からの意見として「登山

技術の継承が以前に比べて厳し

くなっている。」との報告があっ

た。やはり会員の高齢

化で多くの経験や技術

を持った会員の山行活

動への参加が厳しく

なっていることも原因

のひとつだろうか。今

後の説明と議論が望

まれる。

(報告・八木澤昌通)

第3分科会

「安全登山のために」

14団体、23名

はじめに2021年8月北ア

ルプス雲ノ平での73歳女性(単独)

低体温症死亡事故、2022年1

月八ヶ岳天狗岳での71歳女性の

同事故が紹介された。いずれも

高齢者登山で体力の過信や装備

不良などが批判されている。単

独での山行を禁じている(福岡)、

安全登山のための必携装備があ

る(大分)、毎年、スリング・カ

ラビナなど使用法の訓練を行っ

ている(岡山)、1泊2日のツエ

ルト泊訓練をしている(兵庫)な

どの発言が相次いだ。

持病対策については、入会時

の記入、山行時での告知を推奨

(道央)、入会時に必ず実技山行

をやる(広島)、救急法のガイ

ドラインは5年に一度見直しさ

れている。多くのリーダーが新

しい救急法の講習を受けること

が大切(東京)などの発言があっ

た。(報告・佐藤美知弥)

考察

雪崩サーチ
&レスキュー

鈴木孝

労山全国雪崩講習会技術顧問

なぜピンポイント搜索が

甘くなるのか

生存救出は10分

生存救出は10分が目標時間となります。その為には時間的ロスを減らし、搜索精度の向上が必要で、ましてや多数埋没事故の対応には、さらなるムダを省いた理論的な裏付けが必要になってきます。今行われている講習内容で、それを達成する事が出来るのでしょうか。

では、どのような点を善処すればよいのでしょうか。耳慣れない項目もあるかと思いますが、列記していきます。

序盤はウサギ、終盤はカメの歩み

ある時期からシグナルサーチの際に、耳元でXYZZにビークンを振るようになりました。でも全てのメーカーがその行為に言及しているでしょうか。

ビークスの取説には、『本機を直接耳に近づけないで下さい。最低50cmは離して下さい』との警告文があります。また、BC

Aでは2018年のインスブルックでのISSW(注1)において、『雪崩ビークンを回転させる必要がない理由』を発表しています。

耳元でXYZZの振りを行なうと歩度が鈍る傾向が強いので、私的見解から実技講習では実施していません。XYZZの振りが必要なのは、マムートの特殊な事情なのでしよう。

サーチの段階毎に適切な速度が重要です。序盤のシグナルサーチでは速さ(ウサギ)が求められ、終盤のクロスサーチではカメの歩みが必要で、粗雑な動作は大敵です。しかし、多くの人はウサギとカメが逆になっています。

シグナルキャッチとコースサーチの間にも落とし穴があり、ロスタイムを生む一因になっています。シグナルキャッチは、安定領域で実施する事でコースサーチに進めるのです！

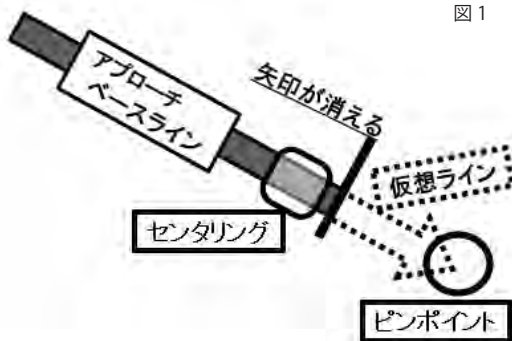
矢印表示の消える距離は？

ピンポイントで時間が掛かり過ぎるのは、ビークンの矢印表示が消える距離を認識していない事も大きな要因と考えます。マイ・ビークンではなく、レンタル品や会の共有品を使用している事も一因でしょう。そのリスクについては、ほとんど認識されていません。

ビークンの機種によって、矢印表示の消える距離が違っており、図3にみるように4つに類別されます。

シグナルキャッチ後にコースサーチに移行し、ベースライン

図1



に乗ってファインサーチークロスサーチへとアプローチする訳ですが、矢印表示が消えてしまつたらラインが指示される訳ではありません。その先は図1のように仮想のラインになる訳ですから、方向を画定する事が肝要で、センタリングの度合いが大きくなります。

遊び角 θ を認識していますか

ファインサーチの際にも留意する点があります。それは矢印表示が消える前のセンタリングです。なぜ必要なのでしょう。図2に示すセンター隣の矢印が点灯するまでの遊び角 θ （偏角）が、ビーコンの個体によって10〜40度（両側で20〜80度）と大きくバラついている為に、粗雑に進入するとピンポイントが大きくずれてしまいます。ゆえに、遊び角の大きいビーコン個体では、意識しての精緻なセンタリングを行なう事によって、仮想ラインを画定する必要に迫られる

ているのです。

さて、矢印表示が消える距離【2m】と【3m】の機種では、前記の遊び角とピンポイントへのズレ量 δ （図3）を考慮するならば、どちらが有利と云えるでしょうか。

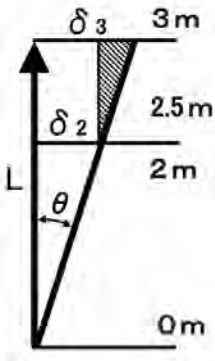
聞いた事もない内容かと思いますが、ピンポイントの精度を上げる為には重視すべき要素になります。自分のビーコンの遊び角 θ を確認してみましょう。そして、各自でズレ量 δ を計算してみてください。

これらの要素も、レンタル品や会の共有品とするビーコンで

図2



図3



のリスクと云えます。

テン・スリーで良いのか

『テン』は良いとしても、『スリー』でピンポイントに的確に入り込めるのか、個人的には疑問に思っています。3mで矢印表示の消える機種では、センタリングによる仮想ラインの画定もしないままで、ファインサーチに進入してしまうのではないのでしょうか。個人的には、どの機種にも適応する『5m』で講習しています。

初心者はクロスサーチ必須

初心者にはクロスサーチをさせないという講習会もあるようですが、大方の初心者はファインサーチが粗雑な傾向にあり、個人的にはピンポイントのズレ補正には初心者ほどクロスサーチが必須だと考えています。

取説を熟読しよう

山岳ガイドや雪崩講師は云うに及ばず一般の方も、自分のビーコンの取説を熟読して付加機能の理解を深める事はもとより、

他の機種の取説も読み漁ってみましょう。取説を読む事によって、電源のオン・オフ手順を知る事は言うまでもなく、どのような付加機能があるのかも熟知出来ると思います。

最後に

前記の内容は、実技講習を実践する中で、個人的に見つけ、あるいは考え出したものです。必ずしも正しいものとは断言しませんが、現在行われている一般的な講習内容よりは的を射ていると思つています。

【木を見て森を見ず】と云いますが、あるメーカーが提唱するメソッドを、全てのメーカー（機種）に無理して展開する必要はないと考えます。各機種に適合した最適解の搜索方法がある訳ですから。



煩惱と初夢、 遠山郷と山岳高原観光の行方



三遠南信道路の進捗図と報道記事

108という数字は仏教の煩惱の数というのが通説、四苦と八苦を足した数が108になるということから煩惱は108という。季節の変わり目を表す曆に由来するという説もある。人の心身を悩ませ迷わせる煩惱は、眼、耳、鼻、舌、身、意の六根それぞれに悩みが六つあって36、それを過去、現在、未来にそれぞれ配し三倍で108。いろんな解釈があるらしいのでこれはその一説。我が国で有名なのが除夜の鐘の108回：インドやネパールのヒンズー教の体を清め

る聖水の流れも108口と仏教ばかりではない。この連載も、私の山の経験・記録など国内外の山々での思い出や話題を108回記してきたが、何かの因縁だろうか？ 煩惱だらけの私としては、その数を越えている？ ようだ。

移り住んだ南アルプス南部信州側の登山口、遠山郷で、現在実践しているのは、何もないを生かしお金をかけないで登山を観光の素材にしたいと、インバウンド向きにも『エココ登山』を推し進めている。自らの排せつ物は携帯トイレで持ち下しを核に、すべてのゴミは持ち帰る。残すのは足跡のみ。

本誌“登山時報”が、この12月で月刊誌としての使命を終えるという。紙媒体離れという世の趨勢に押され、残念ながら来年から季刊になるという。会員を紡ぐ役目は生まれ変わる季刊誌が担うが、顧みると（前身の“山と仲間”を継いで）半世紀を悠々に超える労山の歴史を記録したシンクタンクとして、機関誌として、山雑誌としても楽しめた稀有の存在であった。私は会員外なのに連載を依頼され、今回で駄文百八回目、ちょうど9年目の区切りである。



現在、休止状況の“道の駅遠山郷”



活性化に役立つ、地元ジビエ肉を使った“登山食”試食会、下山の登山者にアンケートをもらう。10月4日登山相談所で

を掲げる。安全対策や自然保護の観点で、一年ごと現状復帰の条件付きで国や自治体などから借地し、小屋代わりの二つのレンタルテント・キャンプ場にテント装備を12張ずつ設置。ガイド登山をはじめ高齢者や体力差のある登山ツアーに喜ばれている。トイレブースもプライベートテントで同じように三か所に設置。初めてのことに関係行政機関には前例がないと時間はなかったが、焦らず我慢でプラン通り実現にこぎつけた。これも国、県をはじめとした行政の助

成金など援助のお陰と本当に感謝している。地方活性化に寄与するためにも追い風となった。これからはさらに山岳高原観光が生業になることを見せ、人が集まれば多角的にビジネススキームが生れることを証明せねばならない。ここ遠山郷のチャンスは「三遠南信道路」という開通すれば東海地方より短時間で人や流通の起きる革命的道路。数年後にはアクセス僻地が一瞬にして長野県南部の入り口として賑わう。それには人・モノを留める宿泊、食事処、各種

ショップ、温泉、観光案内所、南アルプス国立公園を中心としてジオパーク、エコパークのピジターハウスなど、現在ある施設の再構築で『道の駅の再生』をはじめとし、停める、留める、泊めるの3Tを実現させなければならぬ。通過するだけではビジネススキームは起きず、落ちるのは排せつ物を含めた人のゴミだけである。

初 夢には少し早いですが、百名山コンプリート組の高齢

者登山ツアーや個人ガイド登山の実践で、山岳・登山・自然ガイドさん等呼び込み、4割を超える空き家を利用した期間移住構想で、未来の遠山郷の姿を頭に描いている。イターンガイドさん等の力を借り、遠山郷を世界の『エコ登山のメッカ』を合言葉に、遠山郷の桃源郷づくりを目指したいと本気で思っている。

林業に携わり山と対峙し生活を営んできた「遠山郷」が、衰退した林業に代わって半世紀

後、初めて観光により山が蘇る。化石燃料の車は国道沿いの大駐車場に止めて、電気自動車の走るスイスのツェルマットを夢見ている。自然と共存して生きなければならぬ未来には、生活のすべてを（100%ではないが）ゼロカーボン！で、を目指す「遠山郷」にはその条件が揃っている。

そ れには地元を説得させ、多くの協力者を得なければならぬ。そのために正確で整合性のあるデータが要る。今年

の夏、深田百名山の聖岳、光岳への入り口にある芝沢ゲート駐車場に、初めての登山相談所を開設した。そこでのリサーチが生きてくるはずである。

初夢が現実になるために、超高齢化限界集落の活性化を推進するための鍵は、先人が残してくれた素晴らしい大自然である。コロナが去って外部から人を寄せる術は『自然と登山』そして歴史ある無形文化財『霜月まつり』以外ない。



第33回

山登りのための やさしい気象講座

気象予報士・野尻英一

小説「聖職の碑」の遭難、 現代なら防げたか



写真：木曾駒ヶ岳桂小場コースにある「聖職の碑」

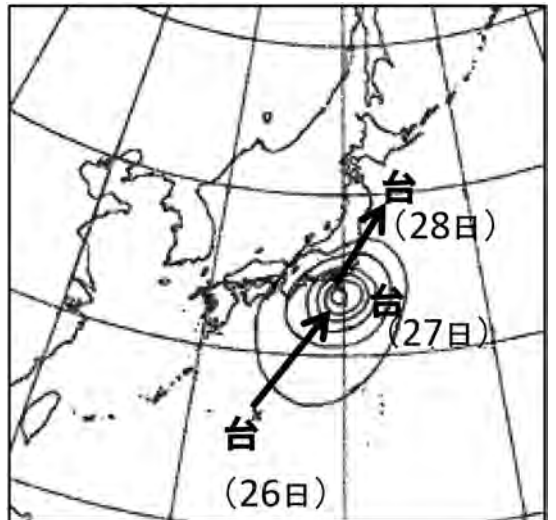


図1：「聖職の碑」遭難時の台風の動き（1913年8月）
当時の技術では台風の強さや動きを正確に把握することが難しかった。

中央アルプスの最高峰の木曾駒ヶ岳は今ではロープウェーを使うコースが一般的だが、かつては伊那谷・麓の桂小場から登る標高差1600m、所要時間7時間のコースが一般的だった。そこを登ると、大正2年に起きた学校登山の大きな遭難記念碑（写真）に出会う。この遭難は、新田次郎氏の小説「聖職の碑」に詳しいが、急速に北上した台風の影響によるものだった（図1）。当時の気象観測網や予報技術では台風が沖繩

東海上にあることはわかってはいたが、詳しい勢力や動きはわからなかった。それから百年以上たった今日、台風の発生や動きは気象衛星で24時間監視されている。予報技術の進歩は目覚ましく、天気予報がきめ細かくなり、精度も高くなったので、天気予報を聞き上手に活用することで、悪天候による遭難はだいぶ防げるようになってきている。

気象遭難が起きやすい
パターンは10程度

それでも、落雷や雪崩も含め気象遭難はゼロではない。私は過去の事故例から気象遭難が起きやすいパターンは10程度に整理できると考えている（表1）。逆に言うと10パターンほど知っておけば気象遭難はほとんど防げるといえることだ。それについては、本連載でもたびたび取り上げてきたので、折にふれ読み返して頂ければありがたい。実は表1の中にはここ数年でほとんど見かけなくなった遭難パターンもある。「①春秋の強い

寒気」や「⑤強い低気圧や台風」がそうだ。寒気や低気圧、台風はほぼ予報可能になり、人々の防災感覚も上がってきたので、登山者側が山行を止めたり、必要な対策ができるようになったりしたためと思われる。盲点があるとすれば、「秋台風が北上するときは、その後寒気が南下することが多い」ことだろう。図2天気図がその例だ。白馬岳事故当時話題になったので覚えていた方も多いと思うが、このとき台風から変化した低気圧が

表1：気象遭難が起こりやすいパターン

気象遭難パターン	要点	代表的な事故例	連載での関連記事
①春や秋の強い寒気	季節外れの雪やみぞれ。気温の低下	1989.10.8 立山	20年4月号、9月号
②雷	雷雲は十数分～数十分で発生。登山者を急襲する	1967.8.1 西穂高岳	21年7～8月号
③鉄砲水	事故現場は雨でなくとも上流で降れば発生する	2000.8.6 谷川岳	21年1月号
④集中豪雨	川や沢の増水。崖崩れ。登山道途絶	2019.5.18 屋久島	20年5月号、21年9月号
⑤強い低気圧、台風	一時的な天候回復にだまされ行動すると危険	1972.3.20 富士山	20年12月号
⑥冬型気圧配置の継続	ドカ雪、猛吹雪が数日～1週間継続し救援も難しい	2010.1 北ア、尾瀬	21年11月号
⑦冬の日本海低気圧	低気圧接近に伴い疑似好天。その後天候急転悪化	1999.3.21 焼石岳など	20年12月号
⑧雪崩	高温日射後の降雪、低気圧による降雪時に起きやすい	2017.3.27 那須岳	22年10月号
⑨北海道の夏山	0℃近傍まで気温が下がることがある。風も強い	2002.7.11 トムラウシ	22年8～9月号
⑩夏山の風雨	気温が上がらず、濡れると疲労凍死の危険が大きい	2013.7.28 中央アルプス	22年5月号
⑪近郊低山の雪	重い雪で歩行困難。湿雪やみぞれで濡れ消耗激しい	2018.3.21 奥多摩三頭山	

北上し、それに合わせて強い寒気が南下して吹雪になり、死亡事故が発生した。台風が近づくと世の中の注意は台風に集中す

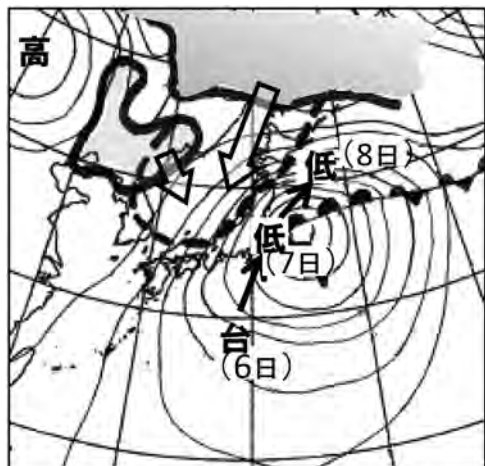


図2：白馬岳遭難時の天気図（2006年10月7日）
太線は上空3000mの気温0℃の等温線。実線が前日6日、点線は7日。
台風から変わった低気圧の北上に合わせて強い寒気が南下した（矢印）。

事は前回の記事に飛ぶ。前回は山の天気の特

生きた気象が山にはある！

も。市民のため、社会のため、気象学が求められる時代になってきた。

雨雲レーダーなど多彩な情報
今は入手可能な気象情報も幅広くなり、高層天気図もインターネットで見られる。さらには雨雲レーダー、気象衛星画像などもだ。山でもスマホなどで

最近では例えば「線状降水帯」のような専門用語もテレビでよく耳にするようになったし、地球温暖化が進んだらどうなるのかということ

るが、山では台風後の寒気も怖い。台風が過ぎたとか、台風がそれたので天気が良いと思つて標高の高い山に登ると、ひどいことになる。登るなら高層天気図などで寒気の様子を確認できれば万全だ。

が大事な受け取り方や活用の方が増え被害が大きくなっている。気象情報の重要性や、情報

最後に上がるが、連載をお読み頂いた皆様に感謝申し上げ、合わせて登山の安全をお祈り申し上げます。

山の気象学でもある。

山に行ったら、ぐるっと空を見渡して頂きたい。そして風や太陽を感じ、少々大袈裟だが大気や地球を感じて頂ければと思う。趣味と実益が一致するのが

見渡せば、近づいてくる低気圧の雲の気配を感じることもできるし、寒気の南下を雲から感じ取ることもできる。雲ができては消える場面も同じ高さ目線で見ることができ。机上の話だけではない生きた気象が山にはあり、山は実は気象を勉強するのにもってこいの場所でもある。

空に浮かぶ地面であることが下界との違いのカギになっている。山に登る楽しみのひとつは雄大な展望だが、遠くまで見えるのは山が空に屹立しているからだ。山の天気の仕事は、登山の楽しみの在り方そのものでもある。山からはるか遠くまで見渡せば、近づいてくる低気圧



○ 労山基金運営委員会

第2回オンライン説明会

開催について

9月27日の基金運営委員会で本年2回目のオンライン説明会を実施することを決めた。本説明会は去る7月20日に一回目のオンライン説明会を行なったが、質疑応答の時間が取れなかったため、今回は質疑応答を中心に開催する。

日時は、11月30日（水）19:00～20:30

参加対象は、基金担当者・運営委員だが、労山会員であればどなたでも参加できる。

開催方法は、Zoomで情報共有のバーベレスで行なう。

質問は11月18日までに労山ホームページの参加申込みフォームから、または労山基金宛に提出する。当日は、基金の登録や申請実務などの基金担当者が知らなければならぬポイントを中心に説明し、のちに質疑応答を行なう。具体的には、基金の登録、増し口、加入者の移籍の場合の手続きなどを説明する。また、事故って入院・通院した時の交付の具体的金額（5

口加入者）を提示する。

（今野善伸／労山基金運営委員）

○ ハイキング委員会

語り継ごう労山の価値を！

第23回全国ハイキング交流集会

は主管団体の奮闘もあり大成功した。登山というスポーツは対面で語り合い、実践で試し、それを繰り返すことで広がり発展する。その意味でもこの集会の成功は大きな跳躍台となる。1980年代「登山の社会的文化的価値・多様な登山」という創立理念の具体化、実践化を展開し、多くのハイキングクラブが誕生、大幅な会員増へとつながった。「若者が一生ハイキングを続けるはずがない。ハイカー層は登山者の源泉」などという暴論は瞬く間に雲海に消えた。今では30年、40年も会・クラブで多くの仲間が活動している。さて、今後の課題は後輩にこの労山の流れを引き継ぎ、仲間を増やしていくことだ。ハイキング愛好者はハイキングクラブのみならず、総合登山岳会にも多く存在している。我々が主人公のつもりでこの課題

に取り組もう。登山の経験を語るのも大切だが、同時に「登山の大衆化」という大きな役割を果たしてきた労山の登山界での価値を語り継ごう。

（田上千俊／ハイキング委員長）

○ 自然保護委員会

クリーン（清掃）ハイクから

グリーン（環境保護）ハイクへ

当たり前のようであるべく『自然』は、守らなければならない時代を私達は生きている。全国一斉で取り組んできた「クリーンハイク」。コロナ禍での山行は、ままならぬもので足元から見直す機会となったのではないだろうか。

私の所属している連盟では、「クリーン（清掃）ハイク」がアップグレードして『グリーン（環境保護）ハイク』に。具体的には、各会場でのゴミ収集、産廃調査に加え ◎ 自然環境を知る活動（親子観察会、ナラ枯れ処理放置シート回収、水質調査など） ◎ 山域を守る活動（道標・案内板の掃除、登山道・山小屋等点検など）そして、◎ 『自然を傷つけない登山



スタートの八王子城址登山口での受付風景



スタッフと参加者で記念撮影

技術・登山様式』の啓発活動（各会場でのトイレ問題アピールなど）に、今年度は、メガソーラー視察ハイク、環境省等主催の大会ケ原のハルザキヤマガラシ除去、トウヒ林再生事業への参加を試みた。手ごたえは充分だったが、会員の自然保護熱は低いのが現状。まあ、現実を受け止めてポチポチと行くしかない。ところで、あなたのおふるさとの山は、元気だろうか。そろそろ来期にむけて歩きはじめてはどうだろう。そして会の特色を活かしてふるさとの山の自然を楽しみながら、私たち登山者だからこその楽しみ。多面的な活動を展開していこう。地方での一歩が、全国一斉で歩めば、力となり道が開く。山歩きと自然保護も表裏一体。それが登山の歩き方だから。

（高橋田／自然保護委員会）

○遭難対策部

転倒による手首の骨折事故増加

9月8日から10月5日までに届いた事故一報は33件34名。

転倒が15名（無雪期12名、沢登

り2名、訓練1名）。墜落が2名（登攀1名、人工壁1名）。転落が1名（登攀1名）。滑落が2名（沢登り1名、登攀1名）。体勢が4名（無雪期4名）。虫が5名（蜂4名、アブ1名）。その他5名（病気2名、他3名）。

登山形態では、無雪期22名、登攀4名、沢登り6名、人工壁1名、訓練1名。骨折14名、損傷4名、打撲1名、捻挫2名、脱臼2名、断裂2名。刺傷5名その他4名。男性15名、女性19名。下山中の事故は、13名。

所属連盟は、岡山が5名。兵庫4名。東京・愛知が各3名。道東・埼玉・長野・静岡・大阪・和歌山が各2名。道央・群馬・神奈川・石川・奈良・広島・香川が各1名。年齢は、20代1名、30代1名、40代2名、50代7名、60代14名、70代8名、80代1名。

今回は、転倒による手首骨折が多発している。濡れた木道や石等で滑り、転倒や尻もち、手をついての事例が多い。蜂やアブによる被害も多発した。

75歳の男性が沢を下降中に滞で

溺れ、心肺蘇生で助かる事例が発生している。高齢での体力不足や溺れない対策も必要と考えている。北海道では、極度の脱水状態で行動不能となる事例が報告された。熱中症の原因のひとつである脱水症は、水分補給のし方や予防の取り組みを会や個人で学習して頂きたい。

（石川昌／全国遭難対策部長）

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。

2022年9月8日から2022年10月5日までに届いた事故一報

事故発生日	地方連盟	年齢	性別	山名	山行形態		事故原因	傷病名	
1	8.21	道央	68	男	尻別岳	無雪期	その他	下山中、右膝が痛くなり、帰宅後受診した。	右膝内側半月板損傷
2	8.27	兵庫	60	女	ヘク谷	沢登り	滑落	2条12mの斜滝で水量に負け流された。	中心性頭頤損傷他
3	9.7	愛知	66	女	岩籠山	無雪期	体勢	歩行時足を着き捻った。	腓骨亀裂骨折
4	8.24	東京	52	男	五竜岳	無雪期	転倒	濡れた木道で転倒した。	右人差し指亜脱臼
5	8.21	静岡	69	女	白山	無雪期	転倒	濡れた階段状の石で滑って転倒した。	右橈骨遠位端骨折
6	9.3	愛知	61	女	田立の滝	無雪期	転倒	濡れた木道に足を滑らせ転倒した。	右手首捻挫
7	9.4	奈良	45	男	不動岩	登攀	滑落	バランスを崩して滑落、下部岩棚で足を打った。	足首骨折(三か所)
8	8.21	和歌山	54	女	常念岳	無雪期	体勢	岩場で足を滑らせ捻った。	半月板損傷
9	8.25	石川	75	男	神崎川	沢登り	転倒	静を泳いでいて溺れたが、這い上がった時に転倒し意識を失った。	誤嚥性肺炎
10	8.29	岡山	68	女	血吸川	沢登り	転倒	石の上で滑って転倒した。	肋骨骨折
11	8.30	広島	73	女	三倉岳	登攀	虫	ノーマルルートでスズメバチの襲撃を受けた。	蜂による刺傷
12	8.28	岡山	56	女	石鎚山	無雪期	転倒	笹原の下の穴に足を取られ転倒した。	右脚腓骨骨折
13	9.4	静岡	52	女	清水山	無雪期	転倒	ゆるやかな斜面で足を滑り尻もちをつく。	右橈骨遠位端骨折
14	9.10	埼玉	77	男	金時山	無雪期	その他	登りの途中で呼吸が苦しくなり、レスキュー隊を要請したが回復し自力下山。	心疾患(狭心症)
15	9.10	大阪	68	女	前穂高岳	無雪期	体勢	鎖場でスリップし足首を捻挫した。	左足首下捻挫
16	9.11	長野	50	男	樽ヶ沢	沢登り	その他	以前痛めていた右肩が下山後痛み出し受診した。	右肩の腱板断裂
17	9.15	東京	80	男	笠取山	無雪期	転倒	笹原の溝状に掘れていた処にストックを入れ転倒した。	右手首骨折
18	8.28	和歌山	66	男	静閑澗	無雪期	虫	遊行中、アブに首筋を刺された。	虫刺されによる発疹
19	9.4	群馬	70	女	三国山	無雪期	転倒	濡れた階段で足を滑らせ転倒した。	右橈骨遠位端骨折
20	9.9	東京	57	女	大汝山	無雪期	体勢	濡れた石で滑り手を突いた。	左橈骨遠位端骨折
21	9.10	道東	61	男	コイカクシュ サツナイ岳	無雪期	その他	極度の脱水状態で行動不能となった。	熱中症(脱水症)
22	9.11	道東	42	女	札内岳	沢登り	転倒	河原の岩場で足を滑らせ転倒した。	右肩脱臼
23	9.10	愛知	29	男	鳳来岩場	登攀	転落	落下時にロープに足を引っかけ頭が下になり頭部をぶつけた。	頭部裂傷
24	8.28	香川	37	男	東赤石岳	無雪期	虫	蜂に背中、脇、腕、頭の4か所を刺された。	蜂による刺傷
25	8.27	兵庫	61	男	雪彦山	登攀	墜落	ロープにクリップ出来ず5m程落下した。	右脛骨遠位端骨折
26	8.28	岡山	60	男	山乗川中流	沢登り	その他	確保した右肩に痛みがあり、下山後受診した。	右肩脱臼による筋切断
27	8.30	長野	61	女	人工壁	人工壁	墜落	ボルダー壁の2mから後頭部より落下した。	後頭部打撲
28	9.17	兵庫	74	男	国見山	無雪期	転倒	下山開始10分位で木製のブロックに頭を打ち転倒した。	左手舟状骨剥離骨折
29①	9.14	岡山	52	女	雨乞山	無雪期	虫	スズメバチの襲撃に遭い刺された。	蜂による刺傷
29②	9.14	岡山	77	男	雨乞山	無雪期	虫	スズメバチの襲撃に遭い刺された。	蜂による刺傷
30	9.3	兵庫	63	女	高御位山	訓練	転倒	木の根っこの上に足を置いて左足首を捻った。	靭帯損傷
31	9.21	埼玉	62	女	雨飾山	無雪期	転倒	濡れた岩に足を乗せ転倒した。	右脇腹肋骨ひび
32	9.10	大阪	71	女	比叡山	無雪期	転倒	石段の下りで足を滑らせ転倒した。	左手首骨折
33	9.15	神奈川	70	女	三方分山	無雪期	転倒	段差を滑って尻もちをついた。	右足腓骨骨折

事故一報の受領順で掲載

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	1	1	1	2	5	4	1	0	15
女性	0	0	1	5	9	4	0	0	19
合計	1	1	2	7	14	8	1	0	34

	無雪期	積雪期	山スキー	沢登り	登攀	氷瀑	人工壁	訓練	合計
男性	9	0	0	3	3	0	0	0	15
女性	13	0	0	3	1	0	1	1	19
合計	22	0	0	6	4	0	1	1	34

	墜落	転落	滑落	転倒	体勢	虫	落石	その他 (病気 含む)	合計
男性	1	1	1	4	0	3	0	5	15
女性	1	0	1	11	4	2	0	0	19
合計	2	1	2	15	4	5	0	5	34

	骨折	脱臼	断裂	捻挫	刺傷	打撲	損傷	その他 (病気 含む)	合計
男性	4	1	2	0	3	0	1	4	15
女性	10	1	0	2	2	1	3	0	19
合計	14	2	2	2	5	1	4	4	34

- 1～2日 若手クライミング講習会
(長野県川上村) 川嶋理事長、白井・石川副理事長、大和田・三瓶理事が参加。
- 同日程 全国ハイキング交流集会(山口県山口市) 久保副理事長、小池事務局長、石川・佐藤・田上・八木澤理事が参加。
- 4日 自然保護委員会
- 5日 遭難対策部会
- 6日 組織部会・全国登山研究集会第4回実行委員会
- 7日 財政部会
- 13日 登山時報編集委員会
- 18日 三役会議
- 同日 ハイキング委員会
- 20日 登山時報編集委員会
- 25日 第6回コンパス専門部会
- 同日 労基基金運営委員会
- 27日 第8回理事会
- 29～30日 第18回全国登山研究集会(東京都、ホテルコンチネンタル府中)

第8回理事会、討議事項

①全国登山研究集会について
当日の役割分担、全体進行と分科会でのレポート報告者の最終確認。マスコミと講演者への対応。

②来期の機関誌・紙について
名称と発行時期・日にち、方法の最終確認。編集担当と内容について、詳細を詰めていく。



小川山、屋根岩3峰南稜レモンを登る若手クライミング講習生



初秋の中門岳から会津駒ヶ岳へ

本誌連載中の筑井孝子さんより

読者プレゼント



2023年の
カレンダー



赤城山を中心に群馬の風景で構成されるタイプと、ウサギや女の子など可愛らしいキャラクターが登場するタイプがある。A4サイズ中綴じ・2カ月ごと。それぞれ先着10名の方にプレゼント。

希望者は以下を明記のうえ、全国連盟事務局へメール・FAXで申し込みください。

- ①お名前、郵便番号・ご住所、電話番号
 - ②登山時報や筑井孝子さん連載スケッチへの感想
 - ③希望するプレゼント（赤城山カレンダー or カレンダー）
- 12月半ばに先着10名の方へ発送します。

FROM EDITOR

月刊登山時報は今月号で最終号となった。次回は季刊誌登山時報春号となる。所属会の会報に山行レポートを提出する程度であった者が、何の因果か登山時報編集委員になってしまった。機関誌づくりに携わるようになって10年足らずだが、毎月の発行なので「待ったなし」が一番つらかった。逆に楽しかったのは労山の仲間と知り合えたことだろう。（今野）

コロナ禍の3年間、いろいろありましたが休刊にならず年度末まで発行が維持され、皆様に感謝です。来季からは、新しい編集体制で「季刊」として提案され継続される予定です。執筆者の方々、読者のみなさまも難うございました。（橋口）

記憶がないほど時報と関わってきた。少なくとも4代の編集長とともに労山の歴史を記録してきた。「読み、書き、登る」は私の尊敬する元西本編集長の口癖だが、少なくとも会・クラブ内に一人はこのことを主張し、こだわりの仲間がいて欲しい。来年からは本誌は季刊。熟成された内容となることを期待したい。（田上）

先日さる講演会での講師の言葉「巡礼の旅には覚悟が必要。これは自分の人生の本流なのだ」と悟るべしは、聖地巡礼はもちろんだが、あらゆることに通じる。5年間『登山時報』校正作業の一端を担わせていただいたが、果たして覚悟をもって微力を尽くしただろうか？ この間いろいろ学ばせていただき、ありがとうございました。（鈴木）

闘病中で月刊紙最後の編集に関われず残念です。季刊になっても、魅力ある紙面づくりに貢献できるよう、しっかり治療して再び編集に携わりたいと思います。皆さん、季刊紙も引き続きご愛読方よろしく申し上げます。（酒井）

2005年長野に移住して以来、登山時報の校正と編集後記のお付き合いをさせていただいた。歴代の編集者に大いに迷惑をかけた一人である。桑村さん・渡辺さん・現在の濱崎さん。そのほかにも迷惑が。この場を借りてお詫びします。「会報」紹介の欄での返信は、うれしかった。（塩田）

ふふハハハ

No.188 村松 孝一



登山時報

©禁無断転載

12月号 No.574 2022年11月15日発行

編集長 今野善伸
副編集長 橋口晴彦
編集 酒井正裕、田上千俊、濱崎優子（進行）
校正 塩田善次郎、鈴木幹雄
DTP・デザイン 来住真太

発行人 川嶋高志
編集人 今野善伸
発行 日本勤労者山岳連盟
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 5-24
TEL 03-3260-6331 メール jwaf@jwaf.jp
印刷 有限会社 カウズ



労山カレンダー写真に毎年入選

山スキーも遡行中も常にカメラバッグを胸に

■登山・写真撮影を始めたきっかけ

1976年、福井県福井市生まれ。新潟市在住。十日町おだまき山の会に所属。最も注力する山行は山スキー。無雪期は沢に浸りイワナと焚火を愛で、春は山菜、秋はキノコに目を光らせる。近頃は環境調査の仕事で平日も山に入り浸り、週末に力が残らないのが課題。日本勤労者山岳連盟カレンダー入選（2020～2023年版）。苗場山麓ジオパークフォトコンテスト入賞。分県登山ガイド16新潟県の山（2018年、山と溪谷社）で中越地方の山の取りまとめ及び苗場山等の取材執筆を担当。おだまき山の会創立40周年記念「宮澤健二・漆崎隆之山岳写真展」開催（2021年）。

Urushizaki Takayuki



↓ <https://onlila.wtvqjbn>

撮影するのが密かな喜び。

学生時代に始めた源流のイワナ釣り。山歩きが原点。遡行中に目にする風景に魅せられ、釣り以上に写真を撮ることに没頭。現所属会への入会を機に山スキーを始め、雪山の美しさに魅了されて現在に至る。写真は独学だが、所属会の会長で写真家でもある宮澤氏の助言により、労山カレンダーへの応募や登山ガイドの執筆、写真展開催などの契機を得る。

■労山カレンダー採用写真より

これまでの採用写真の紹介を、山の経歴紹介に代える。

2020年版8月「池ノ沢の池」。2016年8月の大井川源流と北岳をつなぐ山行にて。当時は360度VRパノラマの撮影・制作に注力しており、メインの一眼レフと三脚以外に、魚眼レンズを付けた一眼レフとパノラマ用雲台を常時携行していた。撮影機材や酒などの重荷を背負う長期山行も好む。採用写真は池全体を収めたもので、魚眼レンズならでは一枚。（VRパノラマはこちら

2021年版3月「陰影に刻むトレス」。2020年3月の鳥海山千蛇谷にて。中島台からのルートは長い行程で景色の変化に富み、一人黙々とラッセルする充実感是他に替えがたい。この日はガスに包まれた千蛇谷を進むうちに徐々に青空が覗きだした。太陽の角度も良く、外輪が千蛇谷の雪面に絶妙な影を落とす。一期一会の光と雪の造形に息を呑みつつファインダーを覗く瞬間が山行のハイライト。

2022年版2月「賑わう冬の巻機山」。2021年3月の山行。巻機山は10数年前に本格的に山スキーを始めた山。その時は登りも滑りも未熟で、過去最高の疲労困憊を味わった。だが同時に雪山の美に心奪われる契機となり、今も巻機山は冬季のホームである。近年この山は冬の入山者も多く好天の休日には大勢の人で賑わう。そんな中、星空のもと誰より早く登り始めて自在にトレスを伸ばし、朝日に染まる上越国境を

2023年版表紙「凍てつく七高山」。2021年1月の鳥海山にて。冬季の鳥海山頂周辺に発達する霧水のかめしきには、訪れる度に見惚れずにはいられない。多様な雪山の表情を写真に切り取ることは山へ向かう大きな原動力であり、スキーはそれを可能とする相棒である。何より山スキーにより得られる自由こそが、山に求める全てかもしれない。

■今後、写真撮影で目指したいこと

この先も山スキーの機動力を生かして静かな山域へと奥深く分け入り、その景色を自身の目と写真に焼き付けたい。山では常にカメラバッグを胸に抱えており、山スキーの師匠からは「カメラさえなければ少しは滑りもマシになるんだがな」と言われるが、カメラは基本装備、スキーと共に山行の両輪であり欠くことはいかない。イワナは腕ではなく脚で釣るが、写真もラッセルの先にしかない風景を撮り続けたい。

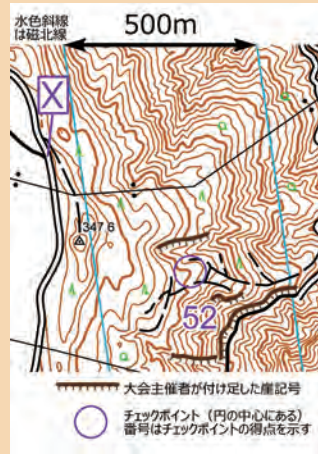
（聞き手・本誌 今野善伸）

地図読み 迷入

監修・村越真
宮内佐季子
小泉成行

Lesson 162

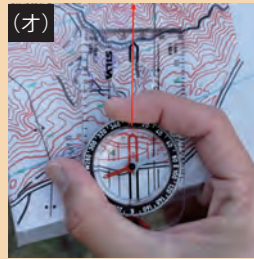
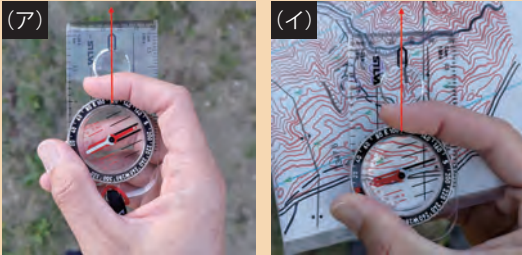
道迷いを防ぐ③ ロゲイニングにチャレンジ



【問題】

ある3人の会話を読んで、次の問題に答えてください。

- (a) ~ (g) がどのあたりを指すか考えてください。
- 下線部分のコンパスの持ち方として**不適切なもの**を(A) ~ (オ) からすべて選んでください。写真内の赤矢印が進行方向とします。



- A .. Cさんが薦めてくれたロゲイニングに参加してきたの！
- C .. おお、嬉しいね。どうだった？
- B .. 私たちはゆっくり歩いたから順位は下の方だったけど優勝したペアはずっと走って50キロ以上走ってたって聞いて驚いちゃった。
- A .. ずっと地図読みするのがすごく疲れたというか頭を使って大変だった。
- C .. ロゲイニングはそれぞれの体力に合わせて楽しみながらトップ選手と同じコースで競えるのも魅力の1つだね。どんなコースだった？
- B .. これが地図。山の上まで行く道がないところにもチェックポイント(CP)があった。
- A .. ここ、結構迷っちゃったよね。
- C .. どれどれ？ なるほど初心者には難しそうだ。どうやって行ったの？
- A .. 分岐(X)から道路を南に進んでCPの一番近く曲がり(a)から道路を外れてCP近くの道を目指したんだけど。
- B .. 何となく東に進んだんだけどよく分からなくなつてウロウロしていたら鉄塔(b)まで出ちゃった。それで現在地が分かったの、そこから直接CPに行こうと南を指したんだけど今度は切れ込んだ谷の上(c)に出ちゃって。谷を渡れず、迷うのも怖いからいったん三角点まで戻ろうとした。
- A .. もう諦めようと言ったんだ。
- B .. 高得点だったから諦めきれず。
- C .. その様子だけでも楽しんでいた様子が分るよ。それから？
- B .. 登っている途中で少し平らになって、また斜面が急になる手前に小さなピーク(d)があつて場所が分かった。
- A .. 私もう迷いたくないって主張したので、そこから南に進むことにしたの。
- B .. そう。まっすぐ行くのを諦めて南に伸びる尾根(e)に乗って、尾根を下って尾根が左に曲がった先で道に乗った(f)。道を辿って分岐をまっすぐ進み、道の終わり(g)で右を向いたら尾根の先にCPの目印が見えた。
- A .. 最初からうまく行くにはどうすればよかったの？
- C .. そうだね、アドバイスしたいことはいっぱいあるけどとりあえず2つだけ。まず、最初に道を離れたところは現在地をしっかり把握してた？

B…道が曲がってるからこの辺かなって。

C…地図だとはつきり曲がって見えるけど、このくらいのカーブは現地では頂点が分らないと思う。始点がずれていたら迷う可能性は高いよね。例えば道路の左側に急な斜面（h）があるのでここを起点にすれば現在地がはつきりして自信をもって進めただらうね。三角点を見てから行くくらいでもよかったかも。

A…なるほど。

C…もう1つ。道を外れてからはコンパスを使った？

B…東に進むのは確認した。後半も使って迷わなかったし、使えていると思う。

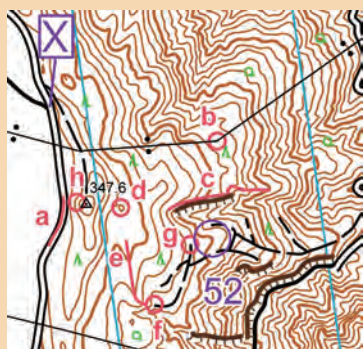
C…そうだね。東西南北4方向に進むのは出来ていそうだけど、今回の場合、例えば三角点からCPに行くには磁北に対して東南東へ進まないといけない。より細かなコンパスワークを身に付けたいね。

B…教えてもらったのに忘れてた。ああ、次こそうまくやりたい。

A…地図を見ながら冒険する感じで楽しかったよね。スマホもあるし地図読みできなくてもいいかなって思っていたけど新しい楽しみを見つけた感じ。

C…いいね。じゃあ今度勝負しよう。

A & B…まず一緒に出てよ！



【解答】

地図を使ってCPを巡るスポーツは各地で開催されている。ナビゲーションのよい練習になるので挑戦してみるのもよいだろう。何より自分のルートプランや実際に見たもの、やったことを言葉にして人に説明すること（されること）はナビゲーションのレベルアップに欠かせないのだと筆者は考えている。普段の登山でも身近な仲間同士で振り返ってみてほしい。

① a：道の曲がるこの辺りが正解 b：送電線が曲がっている箇所含め候補地はいくつかあるが、南に向かってCPに行けるのはこの場所 c：bの南の崖に出たと思われるが、崖記号のない東側も急なため、この辺りの斜面を見た可能性もある d：隠れピークも含め考えるとピークがありそうな場所は他にもあるが、急斜面の手前という情報とe、fとの関係を考えてここに絞れる e・f・g：進行方向に整置して読めば場所を特定するのは難しくない。

② (ア) (エ)

ア、エともノースマークは正しくセットできているが、磁針の向きが正しくない。(ア)は180°、(エ)は約60°磁針がずれている。なおコンパス直進をする際は、(オ)のようにプレートの長辺を地図上の進みたい方向に合わせ、(イ)のようにノースマークを磁北線と同じ向きにセットすれば、(ウ)のように地図を離してもノースマークに磁針を合わせることでセットした方向に進める。(イ)のように地図を離さず直進してもよいし、ちょっとした距離ならば(オ)のようにノースマークをセットせず地図に引かれた磁北線と磁針の向きを合わせたまま進んでも地図が整置されているので進行方向を維持できる。

【最終刊に寄せて】

2009年初夏の連載開始より10年以上本連載をご愛読いただきありがとうございます。皆さんには釈迦に説法ですが、地図読みは、地図だけでなく、風景の中から適切な情報を読み取り、それをあるときは体感的に、ある時は論理的に活用して、自分の現在地や進むべきルートを把握するスキルです。その習得には山の中での経験を積むことも大事ですが、同じように、じっくり地図や風景に向き合うことで、何が適切かを体系的に学ぶことも欠かせません。その機会を、楽しみながら、達成感を得てもらいながら提供したい、その思いからスタートしたのがこの連載です。

直感的には面白い課題も、実際に一方通行の紙面上で問題として作り上げるのは難しく、私たちにとっても良い勉強になりました。3人で交代で作問し、互いに評価することがいい刺激にもなりました。皆さんが、これまで気づけなかった地図読みの面白さを連載を通して発見していただけたならば幸いです。

この2年半、山に登ることも制限される時期もありましたし、今でも、グループでの活動はしづらい境遇にいる方もいらっしゃるでしょう。一方で、オンラインで双方向的講義を気軽に一流の登山関係者から受けることも可能になりました。ICT技術をフル活用した地図読み迷人で、またお会いするチャンスがあれば幸いです。

「思い出の山」「とっておきの山」「会心の山」をキーワードとし、ここ5年程で登山時報に掲載された山行・紀行から3編を厳選した。『一人ぼっちの硫黄尾根』は2018年12月、2019年1月・3月・4月に渡って掲載。この記録を凝縮し、再度紹介する。

一人ぼっちの硫黄尾根

硫黄尾根～西鎌尾根5日間の登攀記録



2018年3月25日～29日	
3/25	7:30 葛温泉 行動開始～ 18:00 硫黄尾根下部 1700m泊
3/26	7:00 発～ 18:00 硫黄岳直下ジャンクション泊
3/27	4:00 発～ 16:00 赤岳前衛峰群 P3P4 コル泊
3/28	6:00 発～ 16:00 西鎌尾根直下泊
3/29	3:40 発～千丈沢乗越し～槍ヶ岳～ 15:30 新穂高

木下育美 山岳冒険倶楽部 星と焚火/福岡

自分の「潮時」に挑戦

登山にも必ず引退の時がある。年とともにフィジカルなパフォーマンスは落ちていくが、それ以上に重要な要素である登山の「経験」は上がっていく。二つのバランスがとれている時こそ最も安全に山に挑める。お互いに命を預けあう登山では一流アスリート以上に「潮時」を厳格に意識しなければならぬと思っている。僕も「潮時」を薄々感じ始め、今までの登山経験を、冬の硫黄尾根を舞台に一人で最後に試そうと思った。確実に今回で完登しなかったため、安全に登り通すために、少々停滞や遅れが生じては諦めずに済む行動計画を立てた。

テントはわずか700gだ。シュラフは夏山低山用を持ち、ロープも誤った使い方が、登りで落ちないことを前提に懸垂が安全にできるダイニーマ6mm×50mにし、ザックは55ℓ・16kgにまとめた。

さあ、リベンジの始まりだ！

1日目、一人ぼっちの寂しさは感じなかったが、まだ余裕のある心体にラーメン1杯の夕食では腹が寂しかった。2日目の朝、テントを出ると北鎌が真正面に広がる。また一人ぼっちの登山が始まる。この後は、トレースの痕跡はもろろん、誰と出会うこともなかった。18時前とくに日が沈んだころ硫黄岳頂下のジャンクションに着いた。

3日目は、硫黄岳を抜けて赤岳前衛峰群に足を踏み入れることとなる。進めば、もう引き返せない。気がかりは、昼間の気温上昇だ。全層やブロック雪崩の大砲のような大きな音はまだ

9日分の燃料と7日分の通常食+2日分の非常食。最終的に朝食チョコとクッキーで400Kcalずつ、夜ラーメンとナッツで500Kcal、1日1300Kcalで食糧計画を立てた。軽量化もグラム単位で行った。

軽量化もグラム単位で行った。



硫黄岳前衛峰群 P3P4 の科尔の岩の間を切ってテントを張る。両端が切れ落ちているので、ロープでテントと体を固定して寝た



いたるところで表層雪崩が発生、巻き込まれる



正面が赤岳前衛峰群 P7 ピークへ続く雪壁で雪崩に流された

聴いていない。だが、小規模であるが典型的な表層雪崩がいたるところで起きています。リスクはあるが尾根通しに進む分には大丈夫だろう。今回の好天のチャンス逃したくない。時間をかけて行動すれば、僕ならやれる。よし行くぞ！

手ごわい壁に向かって

森林限界は過ぎたが昨日と同じく、いきなりズボリだす。ザツクを捨て、ダブルラッセルからのスタート。P1とP2はまとめて湯俣側を巻いて降りた。70

度程の急なルンゼをP2P3との科尔に登り上がり、そのままP3の雪壁からリッジに取り付きP3頂上に抜ける。15時になりテント場を探しながら進む。P3P4の科尔はリッジ上だが、岩と岩の間の雪を切ってそこにテントを突っ込んだ。フィックスロープを張り、体とテントを固定して寝た。一人ぼっちで硫黄尾根のど真ん中にいると思うと、夕日が落ちると共に、孤独に潰れそうになる。夜中、目の前のP4の壁が何度も頭に浮かび、あまり眠れなかった。

4日目 雪崩に流され、それでもI峰の尾根へ

核心部を抜ける朝を迎えた。6時出発。心配で眠れなかったP4に取り付き。急なモナカ雪の雪壁で、卵の殻のような雪面にピックを突き刺して登る。もう必死で、怖がっている暇はない。P4に着くと南側に残置支点があった。残置カラビナがかかると、千丈側にロープを投げる。慎重に次の支点を探しながら懸垂するも、ロープの末端まで支点はなかった。湯俣側に下るのが

正解だったらしい。懸垂後、穏やかな科尔に出てほっとする。雪壁に取り付いてすぐ、目の前の雪面に亀裂が入った。いったん止まりかけ、滑落停止体勢に入ることができ、ピックが根雪のクラスト面を引っかきながら、雪崩本体と体が離れて止まった。厚さ10cm・幅10mの表層雪崩だった。右足大腿と右肩が痛い。岩陰で水とロキソニンを飲んで、雪壁対岸の小さな岩塔下まで渡り、さらに赤岳主峰群I峰の基部岩壁群沿いの急な雪壁をトラバースした。1時間半かけてI峰の東に延びる大きな尾



赤岳主峰群II峰より登ってきた峰々を振り返る。正面が硫黄岳



西鎌は巨大な雪庇ができていた。ところどころ夏道も出る

根の肩に登ると、凜として天を突く槍が突然目の前に現れた。助かった！ 大きなため息をつく。

まだ続くナイフリッジ 白樺平へ倒れ込む

II〜IV峰間は1度フィックスを張り、そして何度か懸垂をする。IV〜V峰間は左右互い違いに雪庇の出る複雑なヤセ尾根だ。

支点が取れずフィックスも張れない。雪庇をよけて、右に左に尾根を移りながら慎重に進む。足元のすぐ下には、雪崩れた後の亀裂が走っている。雪稜のエッジを胸で抱きかかえるようにして、モナカ雪の殻を足で蹴破り、その下の根雪の堅い雪面にクランポンの前歯を突き刺す。1時間程かけてナイフリッジを通過した。

緩い斜面の先は白樺平だった。倒れこむように大休止を取る。咽がカラカラでボトルの水を一気に飲み干すと、緊張から解放された。死なずに済んだと思うと頭の中が空っぽになり目頭が熱くなった。

まだ早い。西鎌まで上がろう。ポチポチ歩き出す。2時間程頑張った。小さなピークを越えると、目の前に西鎌の真っ白い尾

根が左右に広がった。今日はここまで。風が強いので西鎌までは上がらず、半雪洞を掘って寝た。

完登 西鎌から

飛驒沢へ下山 クレバスに落ちる

天気が崩れそうなので2時半に起き4時前に出発。出発して100m程で突然体が宙に浮いた。ドスン！ また雪崩？

と思いきや今度は少し違う。クレバス状の穴に落ちたらしい。岩角で右膝をしこたま打ちしばらく痛みでうめいていた。

恐る恐る右足を確かめると、裂傷で出血はあるが壊れてはいないようだ。どうやら雪で隠れた雪庇の割れ目に落ちたようだ。

ついに西鎌尾根へ

10分弱で西鎌に乗った。槍が青紫の白んだ空を背景にとても綺麗だ。ヘッドンを消して目を凝らしながら、さっきの轍を踏まないように慎重に進む。1時間程で左俣岳到着。もうすぐ夜明けだ。

主に飛驒側を進むが、クラストした雪壁や、時には氷が現れ緊張する。ここまで来て滑落してはシャレにならない。ゆつくり時間をかけ慎重に進む。4時間程かけて、やっと千丈沢乗越に到着。硫黄尾根の課題は終了した！

vol.119

ついでに「たかこ」ちゃん の「人物」を描こう



●影は乾かして何回か塗ろう

雪の陰は青紫 雪山を描こう



大切

- 空が青いのはみんな知っていますが、理由は太陽光の中の「青」い光が散乱するからです。
- 太陽光が雪にうつると少し黄色く光っています。その影なので「黄色」の反対色「紫」と空の青さが同じように水分の空気中と雪の中で青く光りが散乱します。
- 影の部分で青紫で描くと素敵に描けます。



写真：吉川始（山登歩動労者山の会／静岡）『行きの千円札の峠』



あらかると

道のない山

石井光造

連載最後に、約六十年を超える山歩きで、特に記憶に残る二つの山を書いて終わりたい。二つとも道（登山道）のない山。只見線の会津塩沢駅から歩く山。只見川を挟んで向かい合っている。

右写真は笠倉山（九九四m）で、高塩から塩沢川林道を歩き、藪をつめて尾根に出て、着く。山頂からの展望は千m以下の山とは思えないほど素晴らしい。すぐ前には独特の山容を見せる鷲ヶ倉山、残雪豊かな守門岳、青空の下には白いピークを連ねる越後三山が遠景をしめくくる。古い五万図では、岩記号が囲んでいた山頂部が一段上の岩峰として見えていた。

左写真が鷲ヶ倉山（九一八m）。この山は、晩春の残雪に登るのがいい。只見川を渡った十島集落から歩く。広い雪原を横断して、右側の稜線近くまで突き上げている残雪を詰めれば、簡単に尾根に出られる。あとは岩尾根を歩けば、残雪に頭を出している三角点標石を見つげられる。展望は三六〇度の広がり。

Yama no 山の自由帳

第12回

篠塚優 カモシカスポーツ山の店・松本店



キャプリーン・クール・ライトウェイト



秋の東北一人旅は5回目。今年は月山にのぼりました。行動中の服装は快適ドンピシャ。風が強かったので休憩時はパタゴニアのDASライトフーディを着てました。



紅葉と天気の両方に恵まれたのは2019年の三ツ石山から八幡平の縦走時。紅葉に朝日があたり、あまりの神々しさに心が震えました。東北の紅葉は格別です。



東北の翌週は馬場島から猫又山へ。こちらも月山と同じく高曇りでしたが、劔岳を愛でながらの極上の稜線歩き。朝は氷が張るほど冷え込みましたが日中のレイヤリングは月山の時と同じくらいの印象です。藪で生地が切れそうだったのと風が強かったのでソフトシェルを羽織ってました。



秋の山行はほぼこの組み合わせをベースに出かけました。思いのほか薄めのレイヤリングでも行動中は快適ですね。

左) finetrack ドライレイヤーベージュタンクトップ ¥3,850 (税込)

右) patagonia ロングスリーブ・キャプリーン・クール・ライトウェイト・シャツ ¥7,480 (税込)

紅葉の時期になると思い出すのは、2018年に登った栗駒山。初めて東北の山の紅葉の素晴らしさを目の当たりにした私は、それから毎年東北の紅葉を見に行くことを決めました。題して『行くぜ東北シリーズ』です(笑)

東京に住んでいた昨年までは、えきねっとで早めに予約すれば新幹線代も安かったのですが、さくっと2日間のお休みで楽しんでいました。でも今年も松本起点。遠くて諦めかけていました。今年もマイカーで頑張ってみよう! と4連休を取得。初めての車中泊にもドキドキでした。

結果としてお天気の巡り合わせが悪く、山は1日だけで後は観光になつてしまいました。往復1300kmの運転をしたことで遠方へ車で出かけることへのハードルがものすごく下がりました。その翌週向かった馬場島は近く感じました(笑)

秋の山は服選びが1年を通して一番難しいと感じているのですが、そんな悩みを吹き飛ばしてくれるのがパタゴニアのロングスリーブ・キャプリーン・クール・ライトウェイト・シャツ。生地が非常に薄手で軽くしなやかで、ほんのりとした保温性とバランスのとれた通気性、そして優れた吸汗速乾性があり、具合がとも良いです。

お店でよく売れるのは肌触りの良さやデザイン性から人気を誇るキャプリーン・クール・テイリーのシリーズですが、私が山で使ってみた印象としては、ライトウェイトがより快適でした。

また私は汗冷え対策のためにファイントラックのドライレイヤーベージュを下の着ています。腕まくりウェアは体質やジャンル、季節に左右されるため、これが正解、というものはありません。ただ、スタッフの立場でお話するときは寒さでつらい思いをしてもらいたくないので、少しあたたかめになるようにご案内することが多いです。でも、自分の山行ではちよつと薄めの服を試しては快適を探しています。それがなかなか楽しいこともあり、クロゼットのなかは山服がもりもりです。



大事なもの、 揃っています。

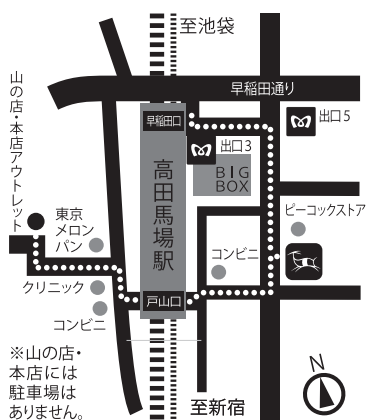
「登山用品専門店」だからこそ
出来る品揃えと接客サービスで
安全快適な山行をサポート。



カモシカ 通販 🔍 \オンラインショップ24hrオープン!/\ こだわりアイテムと充実の品ぞろえをネットから!

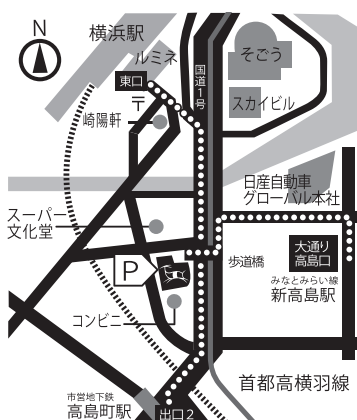
山の店・本店

JR高田馬場駅から徒歩3分



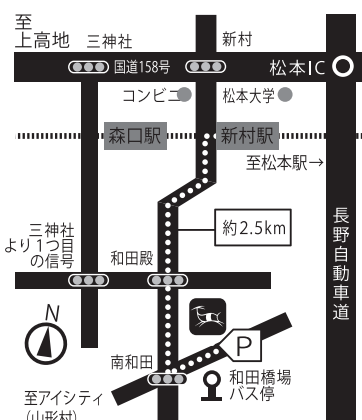
山の店・横浜店

JR横浜駅東口から徒歩5分



山の店・松本店

松本ICから約6km



登山用品専門店 **カモシカスポーツ**

本店・横浜店 OPEN 11:00 CLOSE 19:30(月～金)/19:00(土日祝) 松本店 OPEN 10:30 CLOSE 19:00

●山の店・本店 TEL 03-3232-1121 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-28-6・2F

●山の店・横浜店 TEL 045-440-0711 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-6-32横浜東口・ウイスポーツビル1F

●山の店・松本店 TEL 0263-48-2424 〒390-1242 長野県松本市和田4478-1



2023年カレンダー 申込案内



2023							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月	火	水	木	金	土	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			



価格：1部 1,430円(送料・税込) ※ 2部 2,590円(送料・税込)、3部以上は要問合せ
 労山事務所を受取 = 1部 1,000円(税込)
 申込み方法：送付先(氏名・郵便番号・住所・電話番号)を明記して送金してください。
 郵便振替口座 00180-0-212568 日本勤労者山岳連盟事務局 宛て
 会員は所属会を通じて地方連盟へお申込みください。価格も地方連盟へお尋ねください。

23年版カレンダー仕様
 壁掛けタイプ
 364mm × 515mm
 B4中綴じ・28ページ
 月曜始まり